

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 JAPAN Tama

ル4
2472
6

河内名所圖會

後篇下



門川
看卷
2472
6上

河内名所圖會卷之六

讚良郡



- 慈眼寺 华堂 羅漢堂 阿彌陀堂 藥師堂 牛頭天王 龍間寺 深野池 駒山 雁山 龍尾寺 塚山 龍尾寺 飯盛山城 龍尾寺 須波麻神社 長歌碑 國中神社 摘正行墓 清滙嶺 忍岡 御机神社 細屋神社
太子堂 华堂 龍光寺 和田源秀墓 飯盛 清滙 溪山 秦氏墳 茨田 高瀬里 高瀬川 德菴川 高瀬神社 常福寺 高瀬川 石塔墳 津鉢神社 鍛治行綱宅址 高宮神社 飯盛山城 大杜祖神社 氷室址 高瀬淀

小澤文庫

雕井上治兵衛

堤根神社
 名產糟菜
 大窪莊中西家
 营相寺
 神寶
 古川
 大歲祠
 龍光寺
 蹤蛇川
 佐太
 三社權現祠
 野口
 白山祠
 佐太天滿宮
 觀音堂
 来迎寺
 菩提
 守口驛
 勿入湖
 茨田池
 茂田池
 光善寺
 路蛇池
 牧方故城
 牛頭天王祠
 山崎院趾
 百濟王女墓
 鷺塚山
 牧方故城
 牛頭天王祠
 藏ヶ谷
 萬年寺
 宦女塚
 牧方驛
 踵蛇山
 大塚
 踵蛇山
 賜子絕間址
 芭塚
 三ツ井
 牧方渡口
 御茶屋
 東本願寺御坊
 路蛇池
 牧方渡口
 津島郡神社
 好文天神
 文祿堤
 供御領
 勅梅祠
 堤根神社
 名產糟菜
 大窪莊中西家
 营相寺
 神寶
 古川
 大歲祠
 龍光寺
 蹤蛇川
 佐太
 三社權現祠
 野口
 白山祠
 佐太天滿宮
 觀音堂
 来迎寺
 菩提
 守口驛
 勿入湖
 茨田池
 茂田池
 光善寺
 路蛇池
 牧方故城
 牛頭天王祠
 山崎院趾
 百濟王女墓
 鷺塚山
 牧方故城
 牛頭天王祠
 藏ヶ谷
 萬年寺
 宦女塚
 牧方驛
 踵蛇山
 大塚
 踵蛇山
 賜子絕間址
 芭塚
 三ツ井
 牧方渡口
 御茶屋
 東本願寺御坊
 路蛇池
 牧方渡口
 津島郡神社
 好文天神
 文祿堤
 供御領
 勅梅祠



河六ノ貳

山田池
 鳥立原
 百濟王洞
 郊祀壇廢蹟
 濁杜
 葛葉野
 繩別莊
 百濟王慶仲
 大池
 中宮池
 波瀨院古蹟
 濁岡
 樟葉宮
 弥勒寺址
 文黒磨
 車家
 宇久木塚
 駒止碑
 交野神社
 舟橋川
 帐掛松
 黄金橋
 一之宮碑
 片足羽川
 釋迦堂
 洞ヶ瀧
 和田寺
 長者故居
 文豊原
 天河
 五辛榜
 五辛榜
 一之宮碑
 百濟王敬福



河六ノ三



良讚

良讚
福聚山慈眼寺

禪宗曹洞

行家

良讚 東之和州平郡の界小至又漢田郡の界小至
南之河内郡の界小至北至文野郡東界小至
新羅六帖
けくもあらもとそりて西内路小道をもやそりともし川

行家

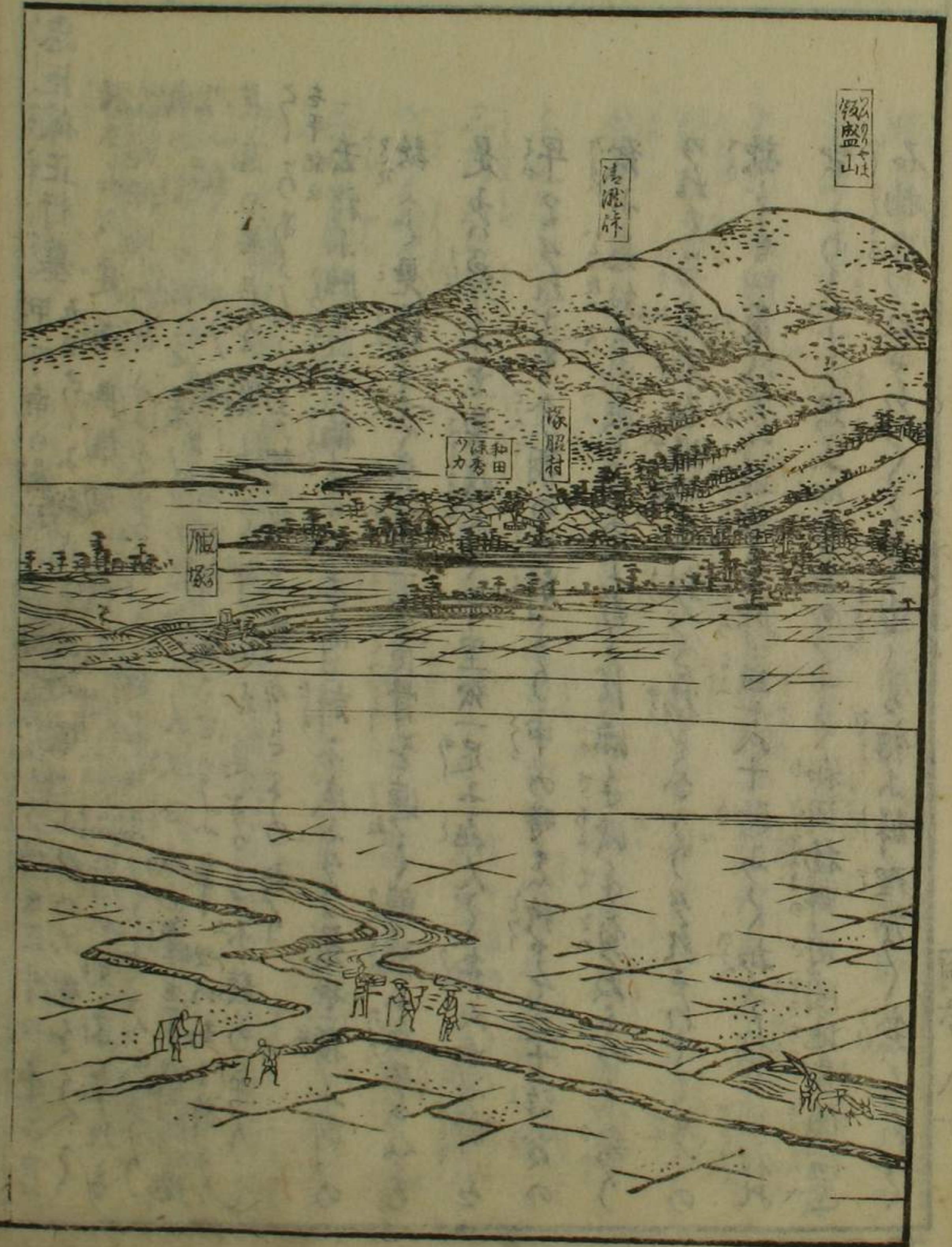
辛尊十一面觀音 唐作長三尺又三十三所觀音像江口君石の像
俱小辛堂小安堂 千堂の像
藥師堂 小堂の南 阿弥陀堂 茉叶堂の像
羅漢堂 小堂の南 阿彌陀堂 茉叶堂の像
支齒山を南天竺波羅奈國大悲の聖蹟を摸して吉刹
辛年既小源 今小至寺前乃澤人以んぐ波羅奈澤
少く惜哉中古以来傳記斐びく只郷童の口碑証と
故小閻闍の年代辛實譯うべに大悲像も何人の外めら尼
寺宇の權輿も分明うべに拵一條院沛宇小揚列難彼の心
渡口小佐 也の旅客紙食を是女あり世小至を
に口若とあすあす附沈病小懼く醫療の驗ゆふか常小

聞るも和州初瀬寺の親母高靈應殊小勝と云せゆ既小かの地り
參詠懇小篤玉七日滿願の時靈差が感ぞ瑞徵多高僧
來つゝ曰河別野崎福聚山を我ゆ小異ぬべに其所の大悲小懇
求せば所願空一かに妓女爰覺く歡喜一直不勞くはよ
來り辛尊派故禮七晝夜小滿めれを忽病惱治金にされう
傳圓く四束の緋素遠村近郷ちく小群に又野崎をすま
二里許やく御供田也名ぼるもと齒寺の寂か死ぬく
厥后龜山寺の朝小權大僧都實慶齒小寺職一て弘長
元年小寺記を書く又伏見院の御時沙門入蓮ちく小
住一く裏弊衣ク形ミ力を優婆塞秦氏小勧くを修
せしあは時小立石塔婆今小存れ又其後永祿八年松永
久秀志貴株小翁アシく迎津効礼の時佛國兵變小懼く
灰煙をみる御辛尊實慶歴名寺記のを遺れり甚う今





めく再營あり奉坐毎縁經とく接花向頃秋之紅葉
 て山之緋あるふ一浪花津の老少小群ドある川舟リ
 掉テ道ゆ人を言葉教ひく情ある事多是と呼名泰と云
 牛頭天王社生太神とん
 太子堂_{日村小浦聖德老子像守協}
 駒山_{諸本森}
 深野池_{日村新田}
 龍間寺_{龍超山号}
 龍光寺_{経寺}
 本尊千手觀音_{長丈八寸}
 佛舍利あり
 本尊十一面觀音_{祕佛高寺}
 兵火也類廢_{其後源賴朝卿}
 の玄光再興_{火也}
 龍間川_{河源然弓}
 川入一名寺川とく



忠臣楠正行墓

甲可朝の属村鄭麗村の東にあり傳云正平に年三月
小石が建南無權現と雛を掛けて行の文字なれど
氏將軍の故を表すと云ふ姓名不思議也又曰
南の字も楠を表す人父成の墓も櫻州櫻川小在く水戸黄門光園卿建之をゆき半世の初め所
其息の忠臣を賞下て碑碣を建ざるも不韻の至り也
うろあらん人と碑碣を建ひきものなり

左平記云

去程小附直也楠と云ふ所許小成小竹是哉頼ノ訴の
故よと見泡して魯陽二度白骨を連々韓構小武多んと
是少々也勇怪んど千里孤足小死んど無人也心計を
早正されど今朝の已刻申の時未終まで三十餘度の
歎ふ息絶氣死する所多くて殊手濟手匂ぬきのも無く
之れを馬武者を追及し討ひ小松ぞからり然されども多くの
故ども四角八方へ追散し附直七八十騎多く被れを何程せ
半つあるべく思ふ心をちゆく和田。梅。野。園。地。良。圓。河。辺
石楠丸われされんと走進する終ふ辨理なく矣られ

師直已ふ引色小見之なる文ふ九圍の役人須々本四郎とて強サシニテ
矢はさ軍三ノ張小十三朱二伏百ハチ小柳の葉立と百矢とて
弓を射の射を此カタの解捨する般竹尾蓑巻と捨抱く
計取集ヒラミく兩の陰カタを矢坪孤持カタを射する一日著暗カタ
物奥カタを中を當る矢龜深カタを無く矢を楠次郎眉間と
ふえの矢を射らねく接冠の氣力もか一歩行カタを左右の膝に
三所右の類先立の目尾篠深ふ射られ其矢を野の霜不堅カタ
く如く折カタれ矢を矢立カタふ立カタ傷カタ其外三千餘人の兵とも幕
三箭四筋射立カタれぬ事も無く今も是とぞ敵の手カタる
ふとく楠足穿若達カタ北枕小卧され自解の兵ハ十二人思カタ不腹カタ
切カタ上カタ上カタ重而脚カタを和田新發意カタして終カタてうるカタ作直カタ
兵の中小文カタ武庵守カタ若達カタ死カタと逃げたるをば棺内
とう降カタてうる湯波寺宮を郎左衛門カタ云々有者これ

見かく和田が後へ立田と諸膝切く倒る所を走寄て頭に搔んせ
もとふ和田折被ゑ朱狐酒どすあめくらむ大の眼を見開く
湯濱奉官を丁と睨む其眼終ふ塞どして湯濱小肩代せ
取られなる太剛の者ふ腮されく湯濱臆してや有り人其目下
病付く身心惱乱するが仰るは和田を忿うる顔をふ見へ俯べ
新發意が睨める眼地不思く怨靈五體派散
して七日を申ふ湯濱あがん死をせ死ふ乃ち大塚掃除助
手と負ひうけるが捕ふ足跡ふありまくもあくで放馬の通り
乃ち小打棄く遙ふ彦延うりとるは和田捕討れうるを聞く
只一騎馳歸て大勢の中へ入へく切死不らむを死ふれ

○吊楠帶刀君之古墓歌 洛東老樵田廬萬蹊述

ちゆ実乃父のとてけつそそのものちれいあふきりうひく
がごんじよ まめうきの 俗代もきを おのが代を ゆきとをもぞ

あげさゆみ どうほくつて 海づ沙木 はくすじ う風ひとも
れくつたふ あくやゝも それぞ洞の 何處とも言 其せううと
風ひゆすり きくらゆを めがき まな荒野れ あおは乃
まくじんま かひをねく はきもひ あく一束然 無事もふす
かくふうだ 窓れりとて 海うんを あく此身を 仇うら多
きてい控ふと あくたくみ うれき縄の あとすらふ あくまごめて
とく紫母ふ ねぐらむ あく身を 仮乃むと 何うはせ
ふきえあくみ きくらむ まきもくを あくとめの うもあくに
あく風急の あくの身が あくあれを 稽のうめぬ あくろやく
君ふまめの まきめりと あくふ戦 楠の樹を あくがすと
世唐人情 あくまき あくうれの あくとめの あくとめの
あくとめの あくとめの あくとめの あくとめの あくとめの
あくとめの あくとめの あくとめの あくとめの あくとめの
成る時節を あくとめの あくとめの あくとめの あくとめの
成る時節を あくとめの あくとめの あくとめの あくとめの

家集

白雲を

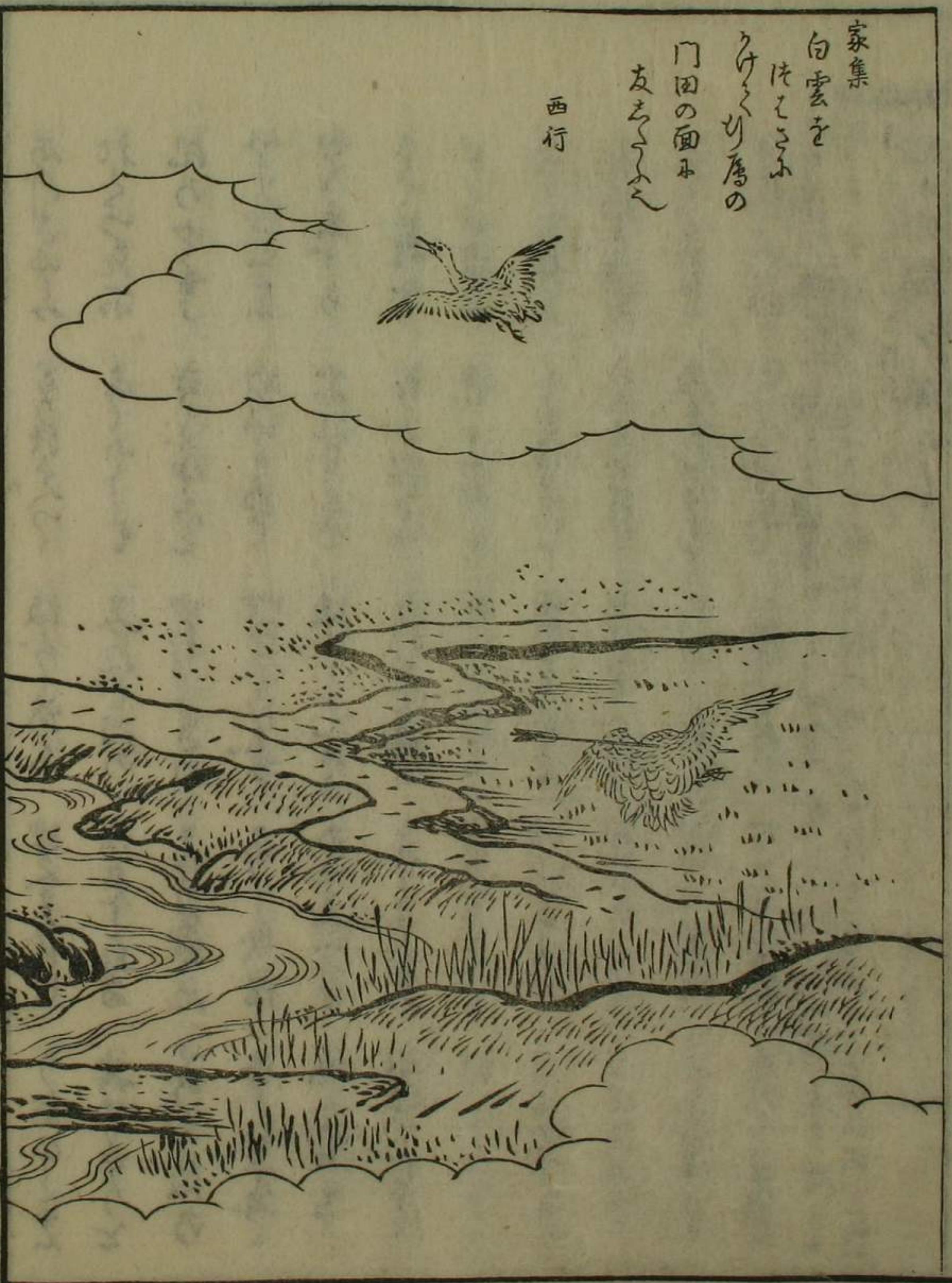
ほくそふ

うけくり鷹の

門田の面

友ちづる

西行



和田源秀墓 甲可南の内塚殿村森下氏の地小あり 和田新夏意之
号にて云行と日附小飛蛇を奉り右ふとく

雁塚 寺尾氏碑標云建る

傳云文明の頃は里小狩人あり近郊原にゆく一朝雄鷹比周公射
郡子れを見る小頭かし人スル小頭スル之幸スル其役一業と
色く又は聖ふ鷹スル小頭スル度スル唯スルの鳥を射スル捕スル翼スルの中スル城と
見スル小初小射捕スル雄鷹の首スル公抱スル之スルを捕人スル者スル小
公感スルトスル大スル小スル激哭スル忽スル出家スルて雌雄の脣スル也スル高スル小善提スルと
吊スル経スル涌スル一スル佛門スル小隱スル半スル之スルを考スル了スル小
うスル小翁スル益スル厚場スルとスル近年スル其旨スルを石スル鵠スル碑スル雄
を立スルこの因縁スル故スルせふ

國

牛神社 中野村スル生土神スル延喜式出

今天神スル社

國牛神社 中野村スル生土神スル延喜式出

今天神スル社

清滝川 渡盈川スル入

河内村スル至

龍尾寺 甲可南の属村スル河内村スル

禪宗

須波麻神社 甲可南の生土神スル

延喜式出

中垣内村スル

御机神社 中野村の属邑スル上不あり 延喜式出

今天神スル社

飯盛山城 正平二年 高スル直スル小陣スル秀義スル森齋スル正平四年

元龜三年

水室址 今富池スル甲可南の属村スル

河内村スル

忍岡 國山村の一名スルは山スル長久の松スル大樹スル豈長の末ノ坂

遊佐信教スル高スル補スル珠スル龜スル天正二年四月

津杵神社 春山の属村スル井スル延喜式出

護人スル法印覺寛

忍岡 國山村の一名スルは山スル長久の松スル大樹スル豈長の末ノ坂

遊佐信教スル高スル補スル珠スル龜スル天正二年四月

郡田茨

高宮神社高文村小あり延喜式曰大月次新嘗三代實福云
貞觀元年小從五位上と授く傳小神宮寺あり

高宮大社祖神社出治の生土神と云
細屋神社延喜式小滋田那小入高秦村小あり今天神と稱
親焉故安奉れ

秦氏墳秦村小あり土人秦川勝の塚と云

鍛冶秦行綱宅址秦村小あり相傳後高羽上皇諸州の名通を
苗胤秦自平秦有成也

茨田郡東古瀬良郡及び括列東生郡の界小至り而も淀川を界小河ノ南を
寝屋川瀬良郡源定野郡星田山の東流をく寝屋村の東源流を又
德菴川淀川の下流小高瀬莊を達するふうに名と云

高瀬川淀川の下流小高瀬神社の名小瀬渠あり是と云浦川と云
候後撰見つこせた未せ凡るす浦川日と御小め又月毎の以

高瀬淀日所を

續後撰

あと極む能乃渡不ま既そそのゆくや無事ふる石墨と

日

かアモテ高瀬の淀れ多きね林立あ^シ無事ふる石墨と

日

ハトセウ高瀬淀のことを極りそぞ詔を詔ひきゆく

日

おと高瀬庄の淀の鷺羽舟林立ふ葉取かよし見境

日

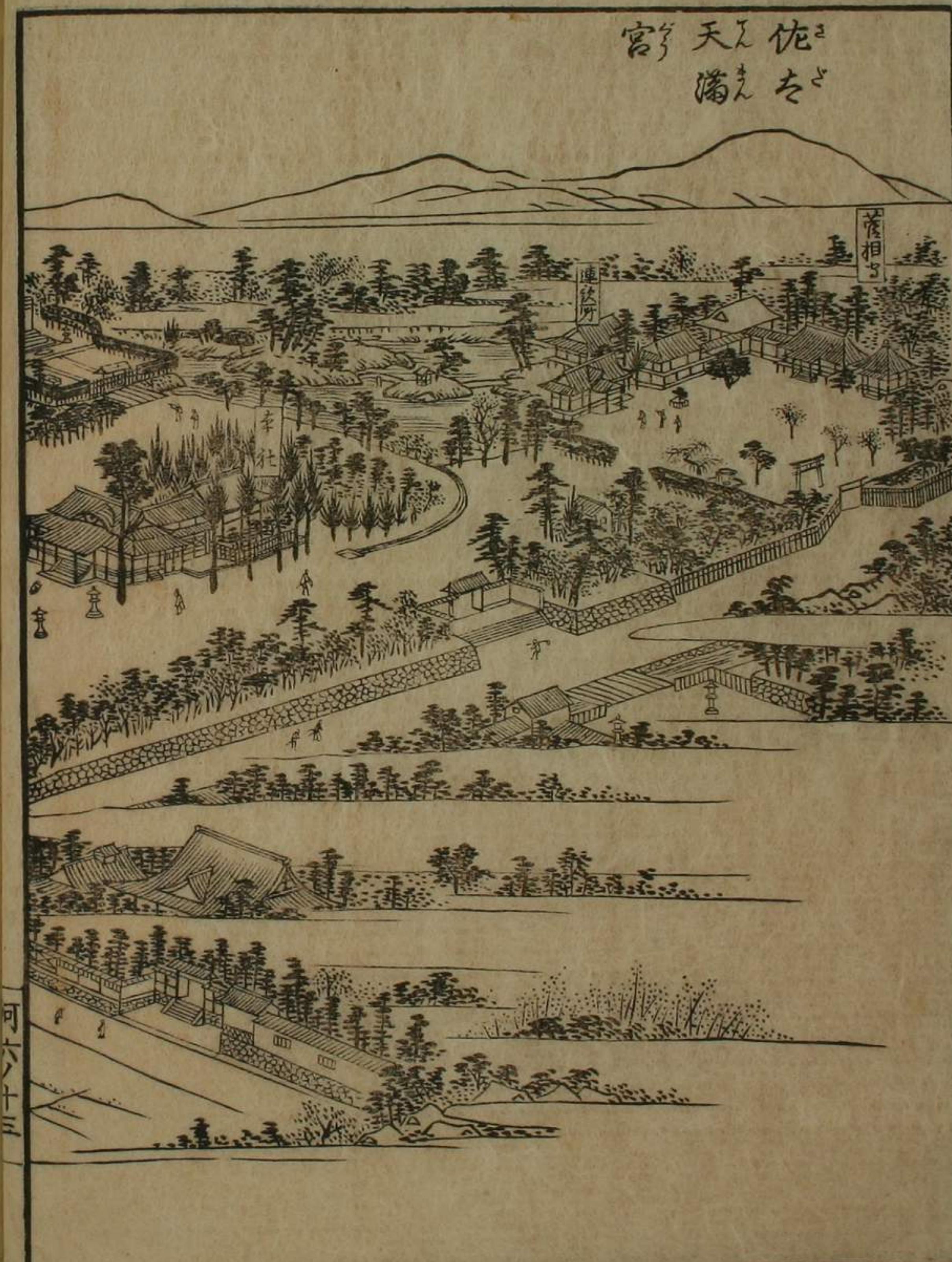
高瀬神社小字高瀬莊本村の小あり延喜式出今八幡と称
常禰寺世本村小あり高瀬ふと号す

本尊阿弥陀佛寺日佛教也藥師佛也墓の供度像
物を供ふ行基の冥福ふく齋内院四十九院の其一院也

石塔塔頭新方村小あり土人和泉式部の塚と云

殿夏門院
大津
源朝長松居
義家教雅
時令法師
津守國子

河六ノ十二



佐太天神
馬場前



河六ノ十四

堤根神社 常称寺村ふあ延喜式出今云湯宮と稱はよ常称
例たと九月十五日祭小神宮寺あ

野口おぐち常称寺の溝村

夫本

涉勝野形の尾おひくまで羽風はかぬの事

信仲

新六しんろく野の里す宿しゆ道みちの芝生しば今いま草くさりりり

信實

守口驛まつぐち諸福村よしのく土人どじん内助うちすけ御ごとと又また内村うちむら千町せんちゆう湖こ

千首せんしゅ今いま御縄ごのなわして名な公こうと

守口驛まつぐち東生郡とうじゆの界きで西南十二町ふあ山列さんれの界き橋ばし金橋きんばし名產糟菜なまはげ守口村まつぐちむらある長蕃ながはん筋すじ加豆かとうの絆くずしを多く精産せいさん三社権現祠さんしゃごんげんは色いろの生土神いのちのじん

白山權現祠

六番村ろくばんむら中なか相處あい寺てら神じん南村なんむらと三麦村

本光佛

正觀音まごん行ゆ基きの長なが五尺ごし南社なんしゃの舊地きうち六番村

津島郡つしま神社

鳌敷延喜式えいぎ出だ金田村かなたむらあり嘉祥かじょう三年十一月從

大瀧莊中西家（おおたきやうちゅうせいが）にあり中西四郎範顯の後裔（ごえい）より年久以來

直卿清由緒ありと勤仕を代々太坂の尾列邸令をうけ
太村の名ありを麦も佐をうりニヤ麦村三麦村に麥村六麦村七麦村八麦村九麦村北十麦村の属邑たり南十麦村にて已上十一村を大庭莊とすト高村公十一麦村とも

佐を天満宮佐を小町は所系街通にて柔店貨食家あり

祭神堂大臣御神駕本像長経人許は地の生土神（おきなわじん）例祭大自（おほおじ）在天神（あめのかみ）好文天神（おほぶんあまのかみ）辛社の右邊（あしづ）白左支祠（しらさきじ）又文祠（ふみじ）の傍（そば）

末社中門の外小あり

勅梅（せきばい）社木にあり後水尾院（ごすいのいん）二枝の梅公熙（こうき）一尚社神本

小接木に又御製（ごせい）の和琴公絃（こうげん）院

後水尾院御製

家の風（かぜ）吹拂（ふきふき）神垣やすくとはく梅もすむ

竹内御門主良尚親王御副書曰

河列佐寧（くわいのり）菅神の廟形（めいぎょう）志われとも近代社あ神をくく

素奠（すまつ）の儀式を詰（つづ）りと承井信刑を守尚政朝臣再興せ

れより社齋（しゃさい）同代集（しゆうだい）い見る者奉禪（ほうぜん）と触（さわ）その毛乃其毛

太上天皇百和杏小梅乃折枝をそぐ尚政朝臣小終（おひし）至

一と神の庭ふはく瑞巖（みゆいわん）の人物（じんぶつ）これふ候（まつ）くの
清製公尚政朝臣（せいせいこうじょうしん）下（し）たすふ昂納之内庫乃貢物也
獨（ひとり）如何の葉（は）うこのれの角（つの）へてく神の德（とく）へくそく
かれはち堂（どう）いよくあらそくあの彼（かれ）御製（ごせい）由來公かん
はくべくよく不原ふとうしてやしるきとえをいそく
ちよくほくふの翁（おきなわ）

慶安元年大呂念立

北野寺勢二品親王良尚書之

桜齒社の勅請（せきじょう）を年歴久遠（かねまきことう）す其盜觴（とうぱく）さざうすに御文安
三年の社記を存し厥后荒蕪（あらう）して社額と神とび瑞巖（みゆいわん）もく

らうううへ紙度安元年幽境守履城列淀城主永井信濃守尚政
彦宮神を尊崇へく再び社櫓紙新小宮なる甚う神威ちぢく
へて社頭玲瓏へく其頃 太上天皇後水尾名香小二枝の梅を
敬く沛豪附ある其頃も御月の末はるかに小社前乃梅小
二車の枝を接へぐ勅のおりんすや神徳のすれんすや不思議ある
哉二枝俱小婉然と葉く時うる然花は實が絢びたる太君の沛惠ふ
沛御製の沛威徳哉と神も梅もあらめありしやせ四方のくまこれを
海へて感激瞻み給トお瞻り群まみせう社頭の前ゆる淀乃
流との門漱舟船とゆく登ゆるくはるよ汎され舟の中より
鳥居乃整えりと見ゆるを遥ねへりあすも多からん
菅公の沛神傳も旧記小詳されを今文あふあくじすも及ばん
都名所圖會小野の沛社の御下にひらき
渡唐天神像扇小松梅の藤絵竹門良尚親王の沛深翁
小野小町左原業平卿の本壯沛自畫

近衛關白信季公沛真筆

河内國佐々木所少く年毎小聖廟の法樂社連致せ一
こり居幸何りと絶えと今ぬへい無へて坐御祈りへ
つひよ敷々向坐をひまほのふはうへ

神やきあせれあと繁乃花盛

近衛信季公

梨地御香合上上皇尚政居小賜下小寄附行

菊畫行門良尚親王の沛筆

同沛真筆あわああ

秋の豊北葉の逸く笑ぬとも名す紅葉の葉れ一りや

良尚親王

渡唐天神

雪舟

觀音画

法眼探幽筆

墨繪天神

左右松梅

菩薩像

左右松梅益信筆讚

社傳

羅山子

哥仙

秋の行月親王

雲會書

秋書

管家文附

十二卷公卿

寶劍

萬武義圓豊杏郡住

和包定

大和守

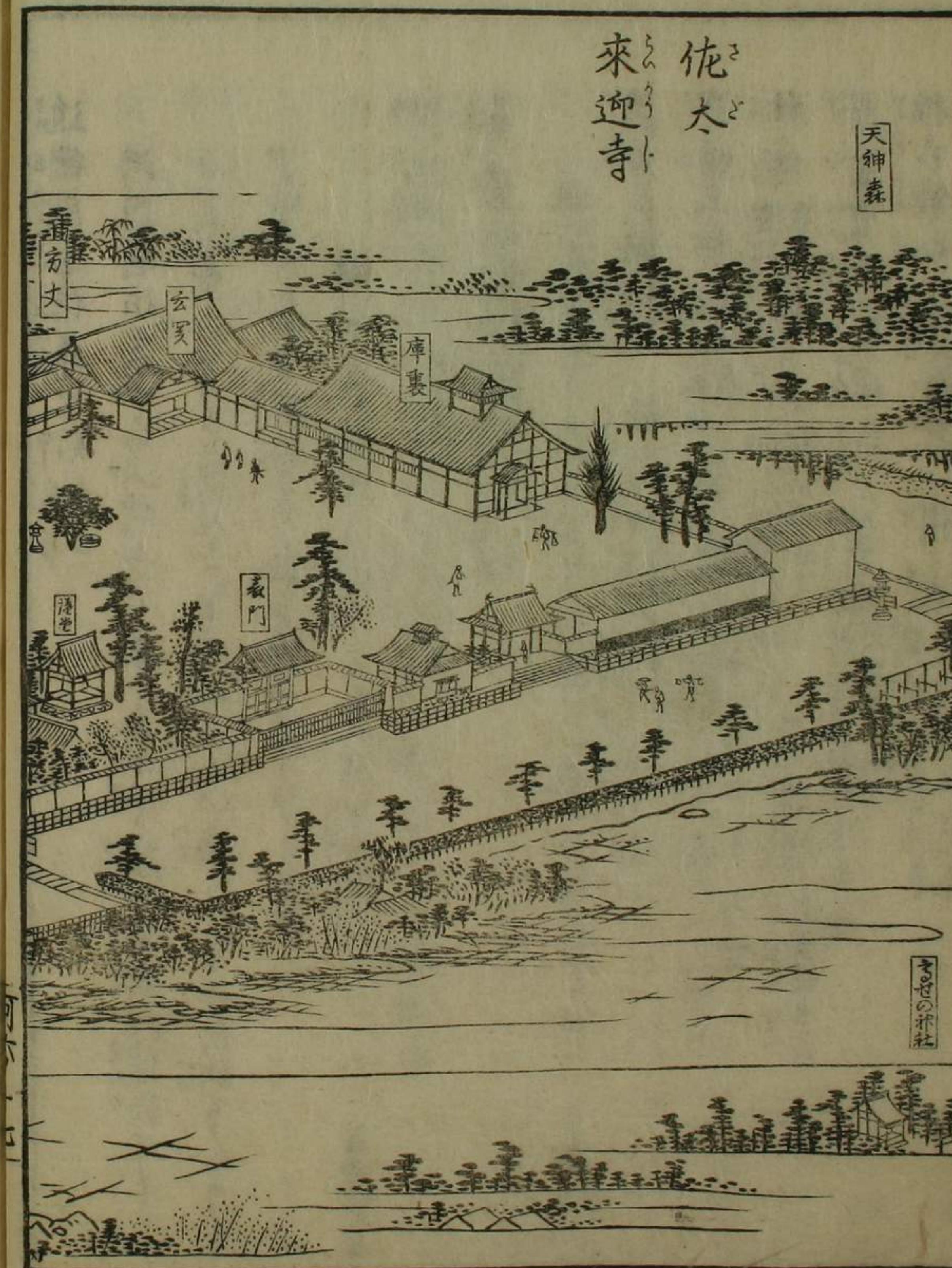
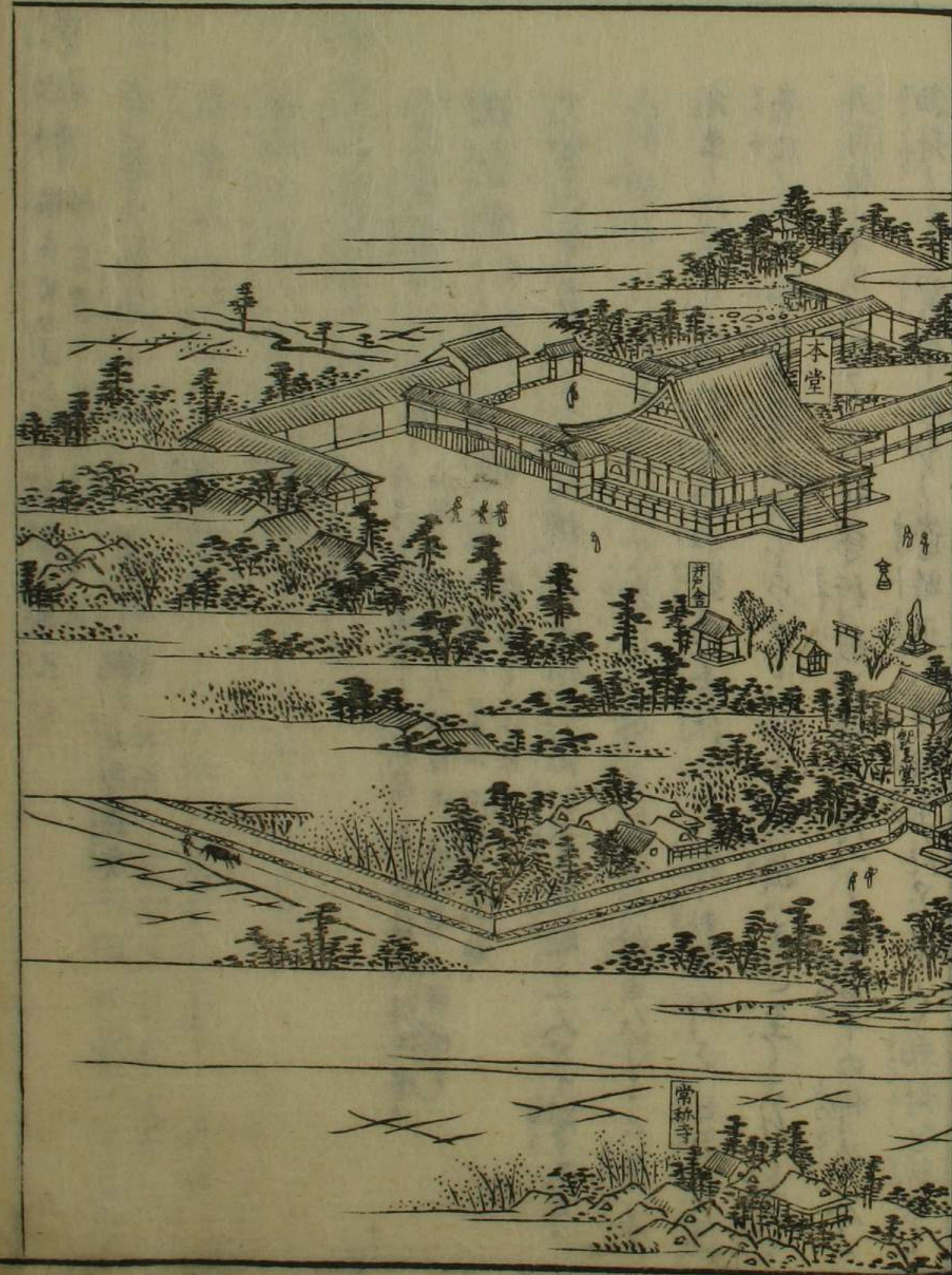
往古錄起八幡寶幢坊等

六卷

偈文

紫野月和尚筆

其外畫變多



菅相寺 佐古宮の後小河奥院を号す

禪宗曹洞正保元年建立

本尊十一面觀音像 長三尺 藥師佛 仁昨蓮慶

秋葉祠 近年の勅傳 連教師

永安尚庸庶碑 寺前にあり

林道春撰

紫雲山來迎寺

鎮西流

本尊天筆阿弥陀佛 石清水八幡宮より感得 在庭像阿彌陀佛

右開山誠阿上人山房と村上帝の靈依也

觀音堂 安久 十一面觀音公八幡主星に相模大明神

守

摘要と累跡

丈當山本尊の來由公傳聞小撰列深江里小法明上人にて至る

山列雄德山八幡宮小宿して融通念佛宗弘通公稿の如く云康永

元年六月廿三日辰石清水別院善法寺に神勅ありて曰我は尔

無跡とあ和光の塵小歸つるをいへども時機に至てそれを空く

五百餘案公色せり大安寺行教法師小傳へ 天筆の佛像今

勅封へと寶庫にあり當時正小時機至れり早く勅封と解く

汝より深江の法明法師小授だりて靈告あること彼は別當山中公

奏聞 一ノ四年七月十五日亥殿を切し法明上人小授与

お察其うへ本堂紙融通念佛宗の本堂とし善く海因と

弘通へる今の本堂うねり 檢列佐吉郡平野郷中大念佛堂

小標けゆふと縁記も大畠日文から又大坂の小湯村の源光の本堂

も天筆卒する法明より接り候へと縁記小あり其是非私了アビ又

和泉國泉州郡江口天筆の佛縁行く其急六十ヶ村日々巡回

番小額り毎月法會公勅むられも何れのうへと之より度り多みや

其由致をうべば今小至り泉列紀列の鄉民ちひ小號信ん

文禄堤 苗郡の西淀川の堤長サニ里許の川岸筑つ土人云

茨田故堤 茨田村うへを間候加賀小至りく故堤僅小號わ

大歲神祠 例案九月十五日

茨田池 平池村うへ清あ水池もよもこれうへんを

夫木

獨りうへんあづれ池を新たて尼ふ深くに積みうへる 美地

淀川の傍を防ぐためゆよりは所

珍子比役半次ふるく



供御鎮天長八年五月河内國備瀬堤の外赤坂堰を停止せり先古川と簾渠に堤入れく南小流これと古川と一名模地川

安田村經く模堤至り分岐く二流也此ノ側小橋列東生

通ノ農業に便とし

絶間池古間村小あり今水涸れ

夫木

絶間池古間村小あり今水涸れ

絶間池古間村小あり今水涸れ

夫木

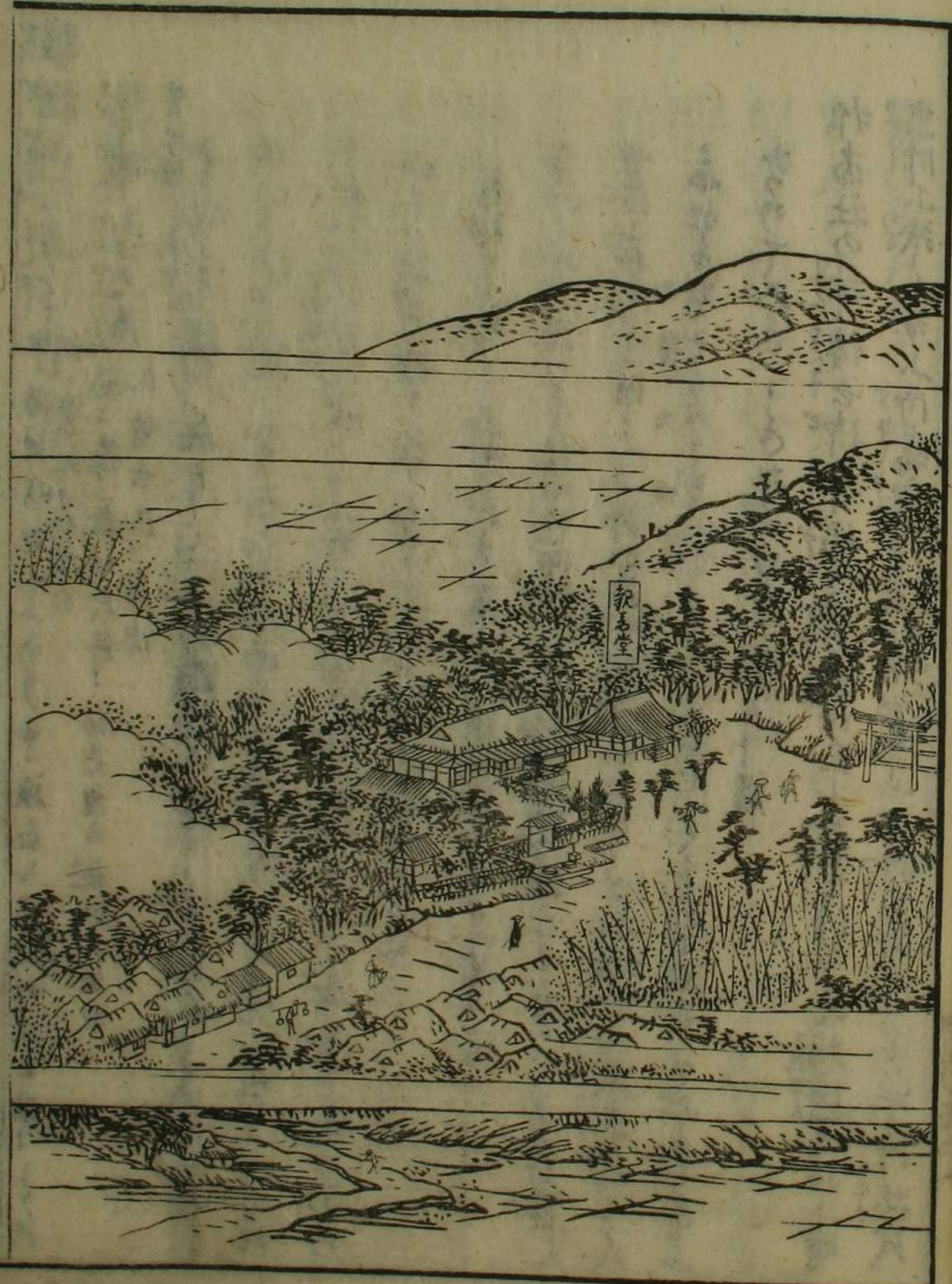
絶間池古間村小あり今水涸れ

誓て曰河伯實小戒を得べ願望すばら沖もべ一其時我浦いと身取く沒せん又大邪祟とあれば願済んと吾徒不死人奉と免るが一水面に向ひて高岸小嶋を寄あらま頼風忍配て覩將小沈んとて浮んと遂小漏遠く流れり寝役ちひふ喜び力と歎くこれを繕ひ其堪成就と修ふ急か一時の人兩所躰く強頭斷間絶間と云強頭絶間を今

移別小属を

駒之くいざるふゆくちど川下枝にかりて在すとてこそ

傳頤



蹉跎^さ 跑山天滿宮 中振村蹉跎ひふあより 中振出に二村の生立神^トさん

累神^{さいじん} 菅太臣^{かんざと}神 像長^{じやう}に及^せ許^き 河内酒云^{こう}長^{じやう}六尺五分

菅公須廣記云

社傳云^神自相^{しやう}

それより淀川尾をとつて河瀬道をとくと來られもれり故^{ゆゑ}乃

とひうる事はかんうらどあれある乃先を御努力めもあくううに

とゆく然^なほこの莊とよ所にて御流れいふへかんやうゑくお乃

山も又之を取つたるキヤをかくとあく

立陽^{たけ}つ引^ひみこれま盡^{つく}ばひひと魚^{うお}すあつも

うみそ乃國なまほやの浦をへ今御波の清津^{きよつ}をとくとこりひでに

ゆか小船^{こねん}はほとる舟の數^{かず}をあまくていあよふ哉あくうん

みにき努^{こづ}そつうすかとぞくらをくまのぬうて御もともすふ

ちりてみを十をゆ^くワケ^くト署

折角社の神傳云^神像^{じやう}を昌泰^{じやうたい}に年^と菅公洗^うへ^ひ謫遷^{せんせん}を候^う時

京作^き小残^{くろ}くわく御恩女^{めぐわ}菅公須廣記云^御父の別生^{べいせい}は慈^{めぐわ}御跡^{みやげ}成

折角の御恩女^{めぐわ}ありて庭上の梅樹^{うめのき}が自^ひる像^{じやう}と二发^ふ御影^{ぎやうえい}

おのひは地下^{じか}で御恩女^{めぐわ}の御^ごを慰^{まこと}形見^{けいめい}ゆくゆ其^じう端^{はな}人

壽特^{じゅとく}の如^ごひを取^と尊^{そん}敬^{けい}清^{きよ}風^{ふう}遂^と不^ふ近^ぢ鄉^{きょう}二十四^{じゆ}村生土神^{じゆ}也^ト崇^{たむ}先

毎年累^{みづみづ}々^々ある年^と神^{じん}茶^さの座^ざ序^{じょ}以^よ来^らひ村^{むら}を別^{わけ}まへふ歲^とて小祠^{こくら}

營^よて御^ご事^ご役^{ぎやく}る年^と小^こうのぬは年^と社^{しゃ}小^こ徒^徒者^しと御中振^{なかはん}出^だのあ村^{むら}小^こ祠^{こくら}

神像^{じやう}もあらはれ^は御^ご事^ごいたまうがお^は奇^き陽^{よう}あれをこ^とふ残^{くら}まほ慶長^{けいじやう}の兵^ひ大

ふも社^{しゃ}櫛^{くし}も燒^や參^{さん}へられども神像^{じやう}恙^{うき}か^と依^よ之^の諸^{しよ}人^{じん}蹉跎^さ天滿宮故社^と

せ^と作^ささる^きれ

龍光寺^{りゆうこうじ}蹉跎^さ天滿宮故社^と無^む有^あ

真言宗

本尊釋迦佛

聖德を子供供養

辛堂小安久

觀音堂

正規者と寧凡日をす供養

佛

行者堂

没優婆塞公

齒寺を初聖德王の佛建嘗て南小御滿堂ありて虛空院を
安久西南小會堂ありて漫僧弘其主之外殿門廣
堅くつり拂れども年無累く七度の慈那額廢
御跡の三回園の字もありぬに和諱中少僧の詔名阿闍梨
御源乃功方りく教迦八相の曼荼羅次名画法眼智質
小書せし付衰形如毎年二月十五日涅槃去り
祐人群微とは時代天滿宮の室式の時村里の寺ひあれを
たれより於光寺神殿を守く神官寺中取りぬく
萬治三年八月齒山の寺職佛資快心の書れ——寺
記小見不見

湖埋山光善寺出は村小あり又梓原堂と號を

本尊阿弥陀佛

安阿弥陀長三尺五寸許左祖師觀音堂人教

龍女池

源内小蓮如大腰懸石齒寺より南を阿斗小空金とて農家小有

當寺ハ文明七年八月辛頤寺丈代蓮如上人六十策の時就弟園吉壽

山上の御堂より加越園譲の時退去し終ひ船路弘歷く若狹小看丹波越り

櫻津園不至りは里小草豆市より小信公の門徒招請し終ひ是處の小女

を人坐く羅障の深き灰數粒寂日佛智の有難む勅をうけく終小成佛の

素懷以還より申て自ちは淀川の別寄梓原の深測小樓龍女より

此頃の恩謝の為小かの龍池を上人小上房へ早くこれ埋を佛閣を

建立し終り我願至これふ報る事かゆ云終て雪小棄タマシとぞ見え

則方四町の池底埋を今のがく御堂と達させゆ故不測埋ゆやと號を

其種うらかく小ニとせ居住し終ひ順如上人を閻基よりて儀つゝ列山科

に移りゆ其趣上人自筆齒寺建立の序文并小蓮如上人の傳記小モアリ

其う連縛して宋代相續蓮如上人遺蹟道場もありぬ

正徳の初まで西漁

正徳

月九日

同遺骨同等身拂衣蓮如上人本儀用自画自讚其外靈寢矣

百濟王女墓

伊加賀村小有

月九日

由緑洋

月九日

二井

那村の東二井小村小有

一名井谷又二井を因ね村小有

意賀美神社

伊加賀村小有

月九日

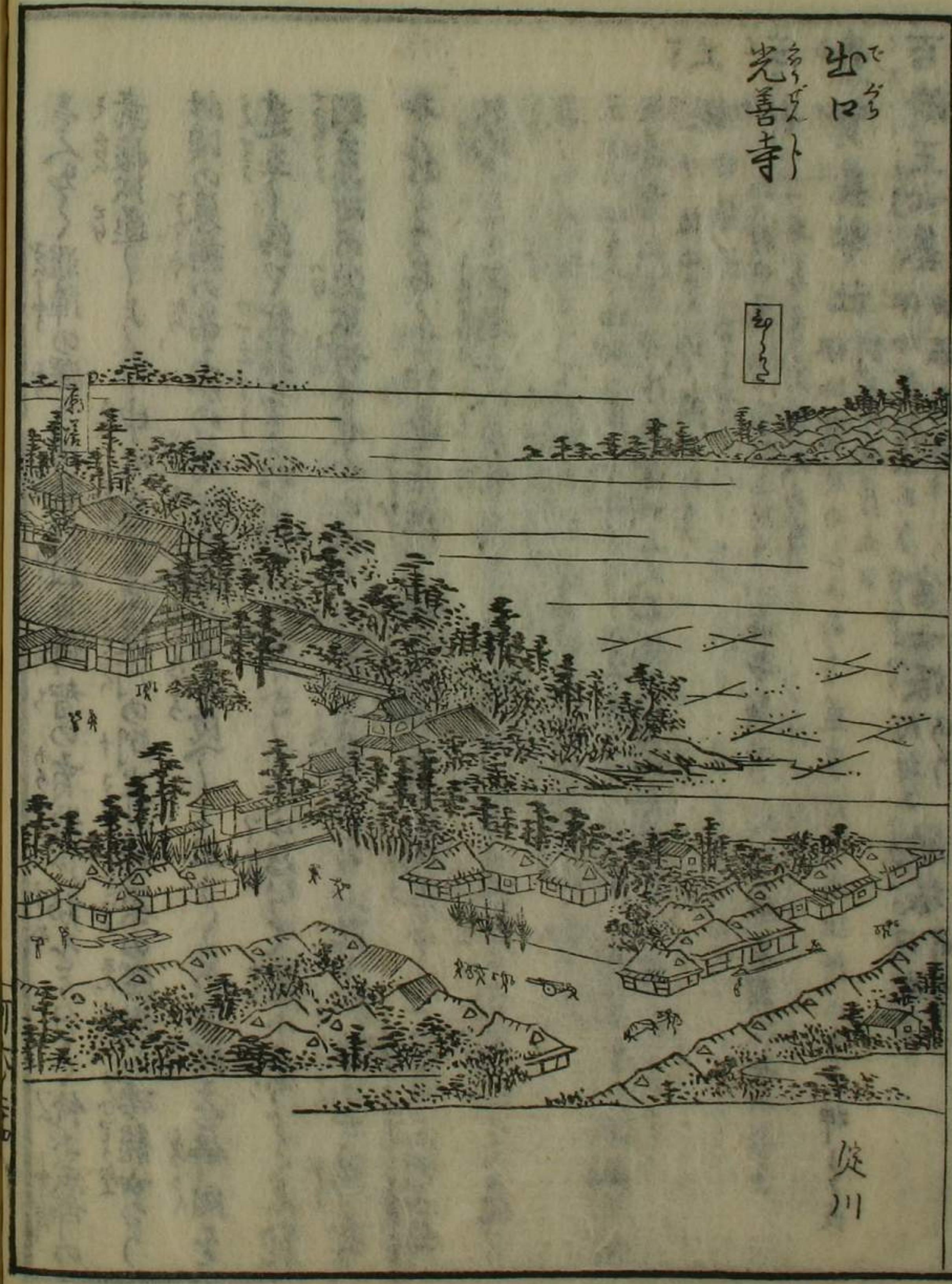
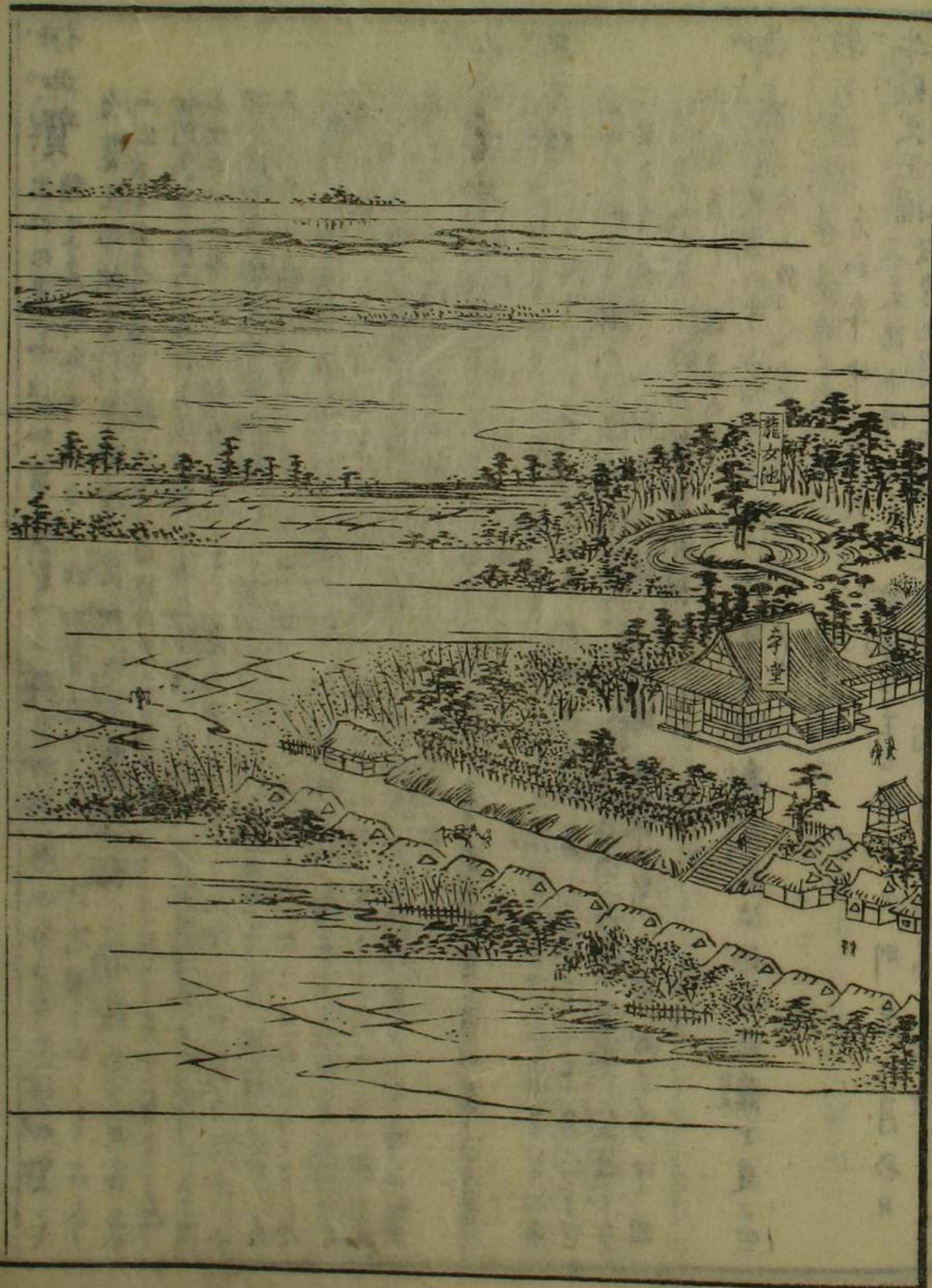
百濟王女墓

伊加賀村小有

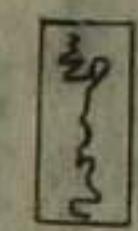
月九日

由緑洋

月九日



出
光善寺



從川

伊加賀出の東小伊加賀村とつ頃の袖躰抄小出るも併加勢も
兼覽王の歎を引て山車安神の勝地吐懶編不詳論あり其言葉
古今古今物名兼覽王撰小あくは彼の事故まうれいをしたるを見え草
河内小中石うけふ日記小石山生より舟にて漂ひとていうと見
山文の所をえやまく薦の中うりこねゆく吉今ふ
アレおの次小保經覽せいかがのしたをよめるす公清ねこれ
をとも小近ゆきりへ一活少納言ふとゆきをかくまたいふと
とくとく和名抄小河内玉筋田那伊香修加也あそとこれも鄉小
峯もいはいとば又源氏小常陸の満ちんいがれをそ移東
只日名ゆり定く近ゆとそく一也云又河内煙すも併加賀
時とて河内彦田那小出せりこれも譲り人
山崎院趾あ那の田二町を施入を

牧方驛このまきは所ちひり駒の牧少くあり一へ生びたれゆる馬もは地
経ゆひと捕へて古経へとくは駿河山列の櫻橋半金橋さな
二里なり其中小津兼上條下條禁野等の殿村あり中頃

東高多このまきは所ちひり腰こしあり

御粟屋牧方の牛ゆり天正の頃豊左衛門秀吉公は地小旗館と建させ

牧方故城このまきは所ちひり元和年中廢れ

牛頭天王祠このまきは所ちひり三支地下附さかづふあく牧方の生太神いのり例栗六月耶日

行者堂このまきは所ちひり親善堂の傳つぐふあり

藥師堂このまきは所ちひり薬師佛弘法大师也

長松山萬年寺このまきは所ちひり般若天王の社頭さとうふあり

辛尊十一面觀音このまきは所ちひり真言宗

長八寸このまきは所ちひり秋栗九月六日傳小化德天皇祠このまきは所ちひり今福翁と称れ

此地もむり惟喬親王滿院小浦このまきは所ちひり古時寺記云仁德天皇因彌一ゆき齋の
放し絹このまきは所ちひり織このまきは所ちひり山大樹の松小止粟と營みて離孤生を親王
歎惜あく時このまきは所ちひり行啓このまきは所ちひりゆき跡このまきは所ちひり長松山也
歸このまきは所ちひり其齋斎アラケを山小埋葬このまきは所ちひり多寧塚山也又藏谷
推古帝の時このまきは所ちひり高麗の僧惠澄このまきは所ちひり辛朝へ渡海も其折の龍風
棄袍このまきは所ちひり覆このまきは所ちひりさんとひこれを救せ善慈このまきは所ちひり小被このまきは所ちひりじうは急難このまきは所ちひり
安泰このまきは所ちひり小脇このまきは所ちひりを即大悲の子像と化し先佛圖を達んとく
山山來このまきは所ちひり風色紙このまきは所ちひり眺このまきは所ちひり小中華の林峯このまきは所ちひり小異このまきは所ちひりば時このまきは所ちひり白
髮このまきは所ちひり老翁このまきは所ちひり忽然とこのまきは所ちひり理れ白檀このまきは所ちひり木紙このまきは所ちひり一至茶このまきは所ちひり小大悲也

歌客を地ニ惠薄小與くわきを是ニ笠ふ春日神へモ施去ゆ
其后貞觀二年の春碑砌の靈寶寺を作ニ奉事之懇々たる伽藍が
建營一因ニシテ萬年通慶の綱領を繕うセラ則ニ於ふよりて
萬年寺を歸一密法の精全と称一又貞觀十四年小天下度豫
流引一而國民多く齊バ其時清和帝牛頭天王の神璽と賜ふ
て度の平金紙は山々ノ祈レシム今北天王社これより其うり以承
弘法大師高野山性空の時は山本有業作佛紙安一國家
平安紙傳豆山又厥后一條院淨宇長保二年小諫讓大支齊
光の子出生一寂照法師也歸一惠心僧都の上足モリ惠公
台宗の同月二十七ヶ條を作リて唐土の智禮法師小史明せんゆく
寂照小持一先後磨詔一む明列の清小至ト南湖の智禮小陽
て同論一其度の地小於く重病紙受く大苦惱を此時幽山の
太悲小平愈紙乎其教坐親焉松上小立セ多ひ靈藥の祕方と

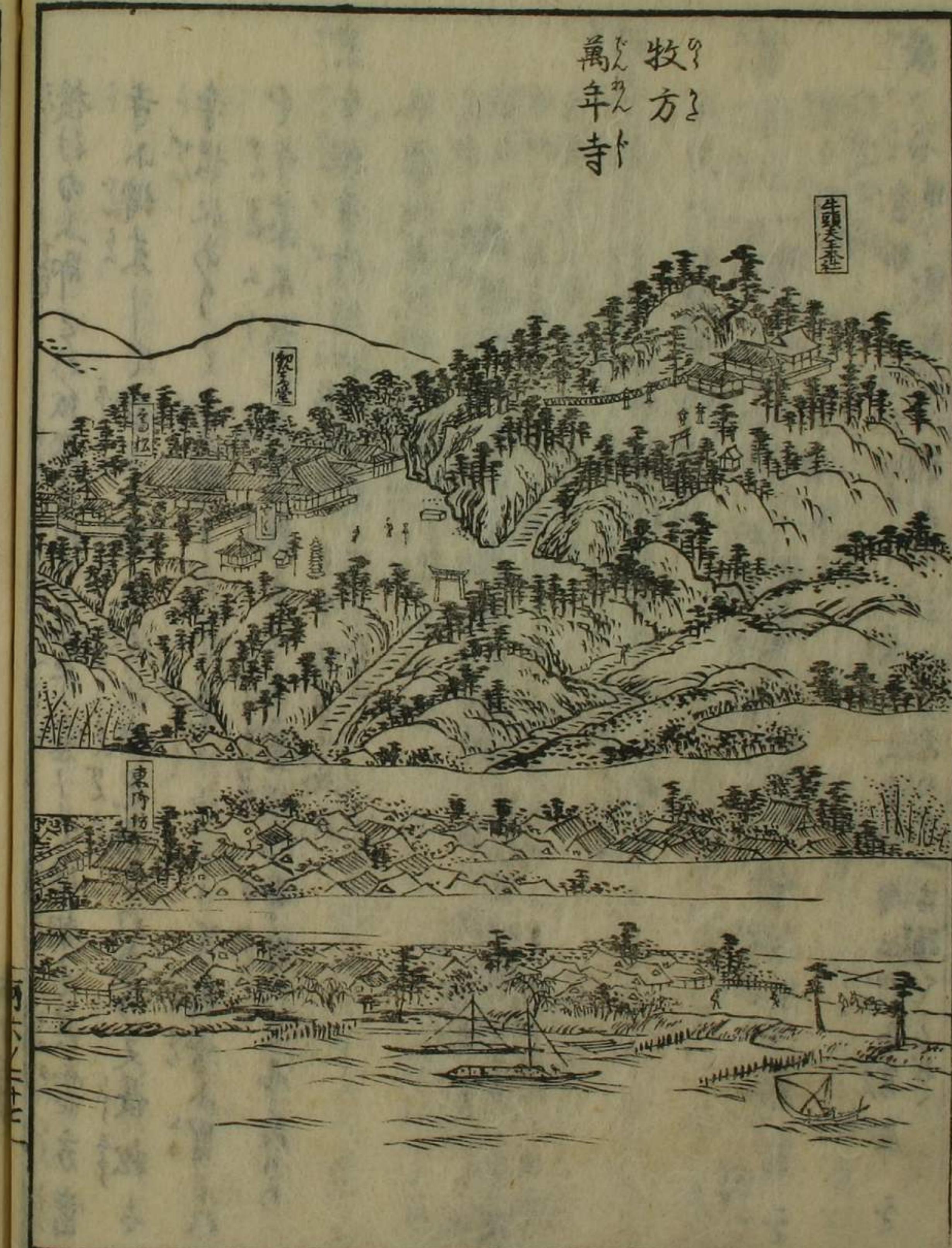
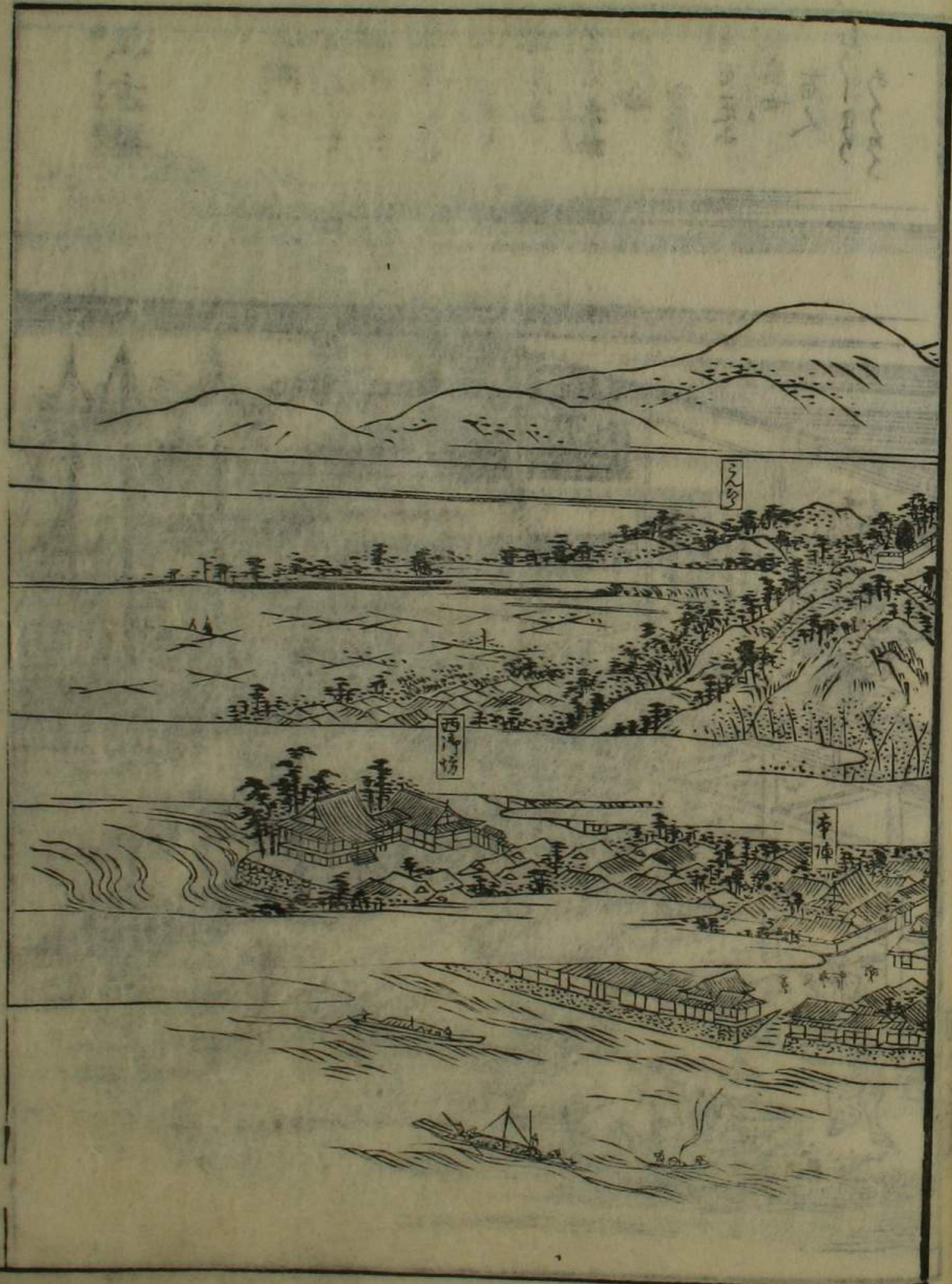
授けゆふ耶これ紙服もれを忽平愈一て尾朝を其靈方當
寺小傳本一て諸人不施也今之灑元丹これより又長松も
寺本にあり今時ナニク荼々也一て霜雪小冒され
ぞ千葉不朽の色と觀モモ亦靈場の寺物とぞれり
東幸願寺淨場自度が願生場トシテ
西幸願寺淨場寂如上人の附自度淨場トシテ

本尊阿彌陀佛 無佛跡の像
長三尺立寸許

法華寺右蓮上人八十一歲の時出產の季子法乍桂大僧都實從の弟
號定號興寺と号次幼名公九十九と云又正暦中兵少佐法
如上人再建寺一局モ旧址を所南へ境内小室從上人のお使ひ
順與寺古系作小あり而此より
西幸願寺淨場寂如上人の附自度淨場トシテ
本尊阿彌陀佛 姿無跡の像

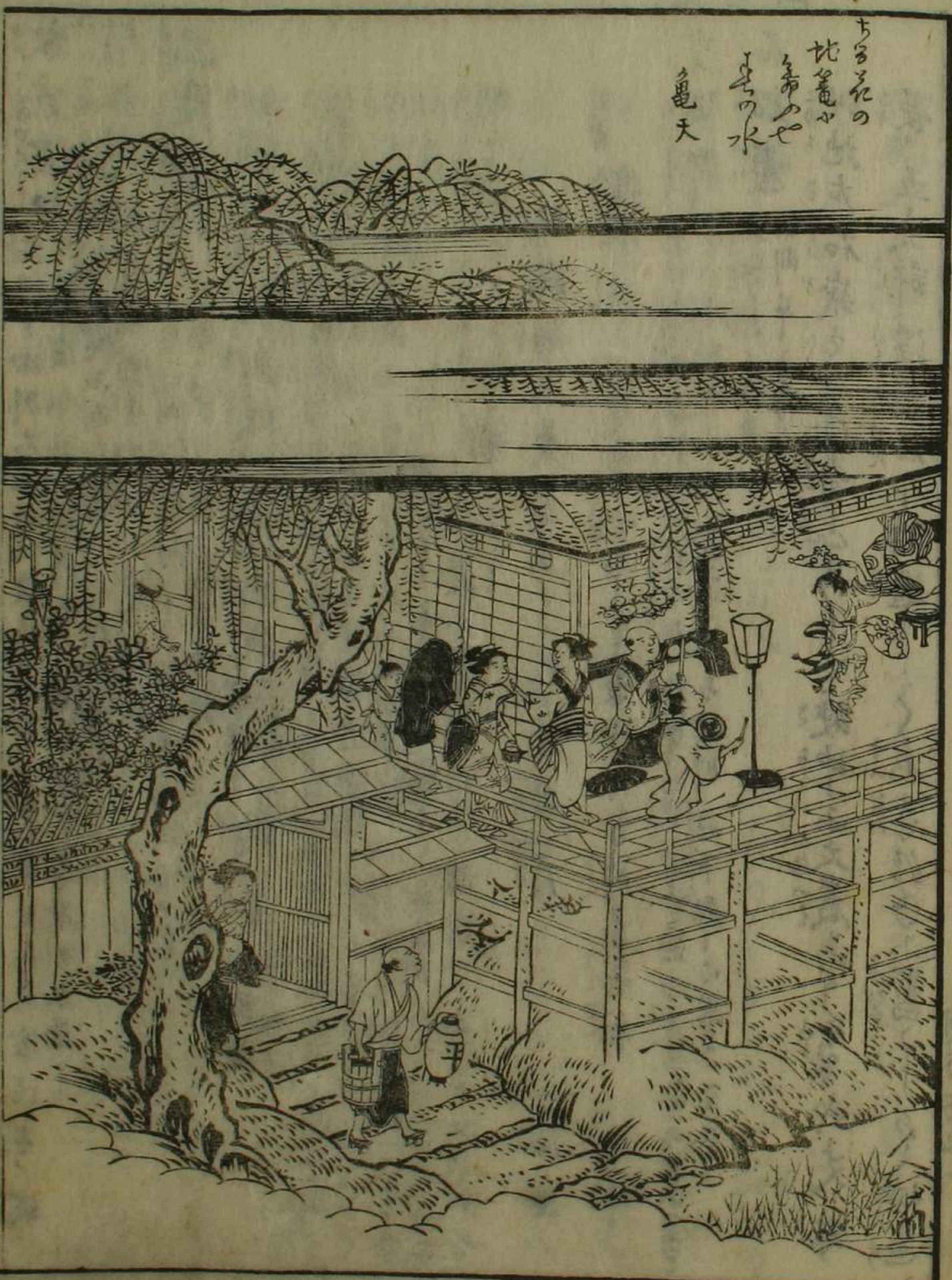
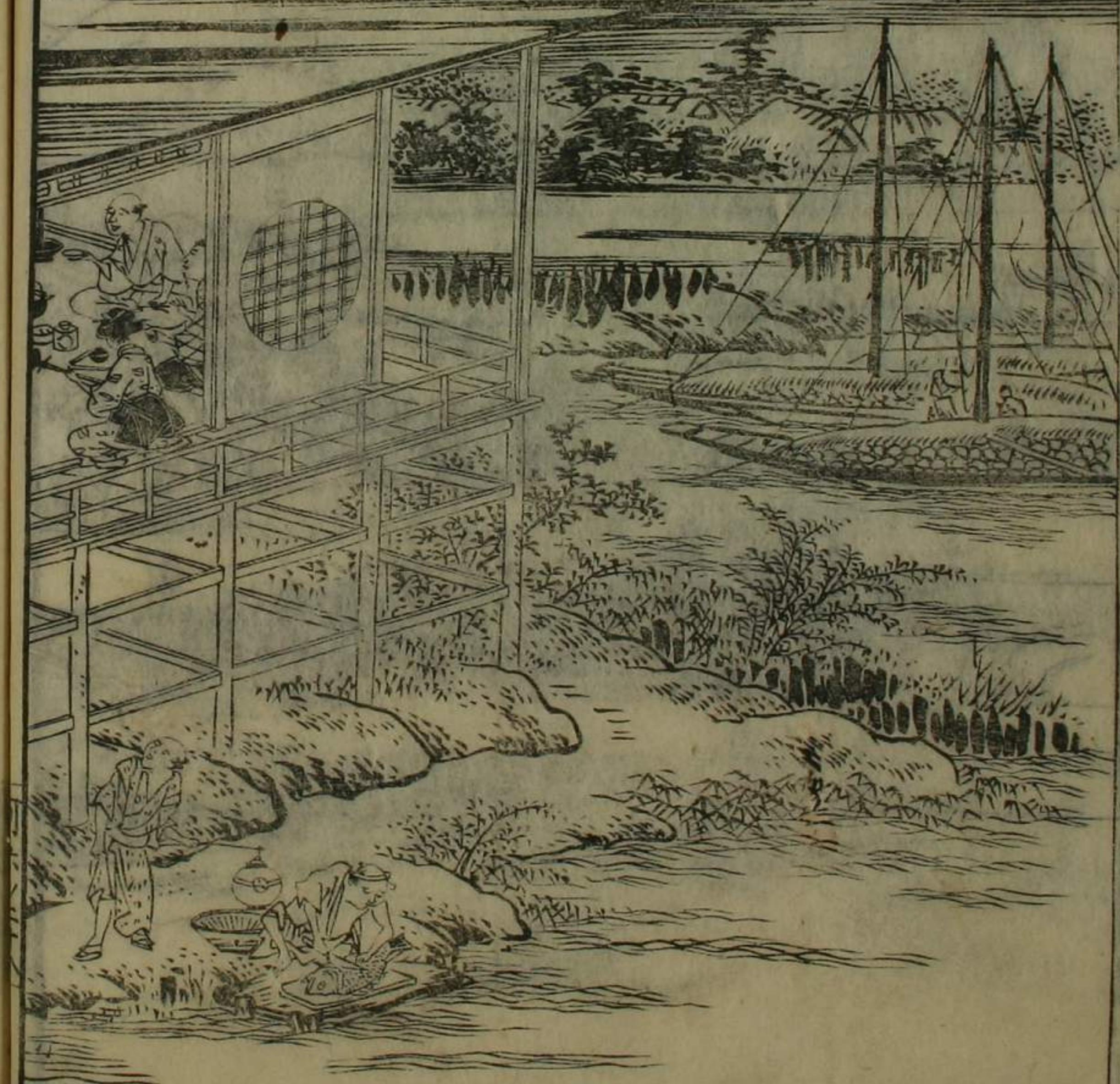
鷹嶺山牧方の東にあり孤峯獨秀ふ一河源の山川卷く
一畔の中小河の傍傳云む一惟喬觀王蒼鷹嶺を
愛也鑿一洞く半埋葬も

藏谷造り寒器乃ひ万巻の書籍と見る由古蹟くく我



牧方驛

は驛も
年々も
魚附も
宿速へ通候
又ハあ國の
諸侯方
馬百足小
飯盛女
百人
の駅宿



牧方渡 淀川と榜列六塙村へ渡れ其外出向渡にわむ渡佐ちノ渡
七番渡下鴻ノ渡等あり但ふ淀川を榜列小渡也
監船所 牧方の馬鹿小あり淀川の船監也
名産蓮 多く生れ加子市店小出
名産蓮 多く生れ加子市店小出

烟艸 郡あらまち諸村に生れ西瓜うるる
貨食船 牧方の宿うちやりある舟ふいあうち船行ふて
羅波津へ通ふ淀の河瀬舟を用ひて取とふく屋と多く
船の物と其船小舟うちのふね船引あり賃をからむ
船客を起
小舟 駕かの貯金
眼の舟 風波の舟あれを漕げき出くせられ
眼の舟 風波の舟あれを漕げき出くせられ

桃酒酌小夏席ゆくわく籠月

霜天小滿 貨食の麦あくを食へくや到る客船

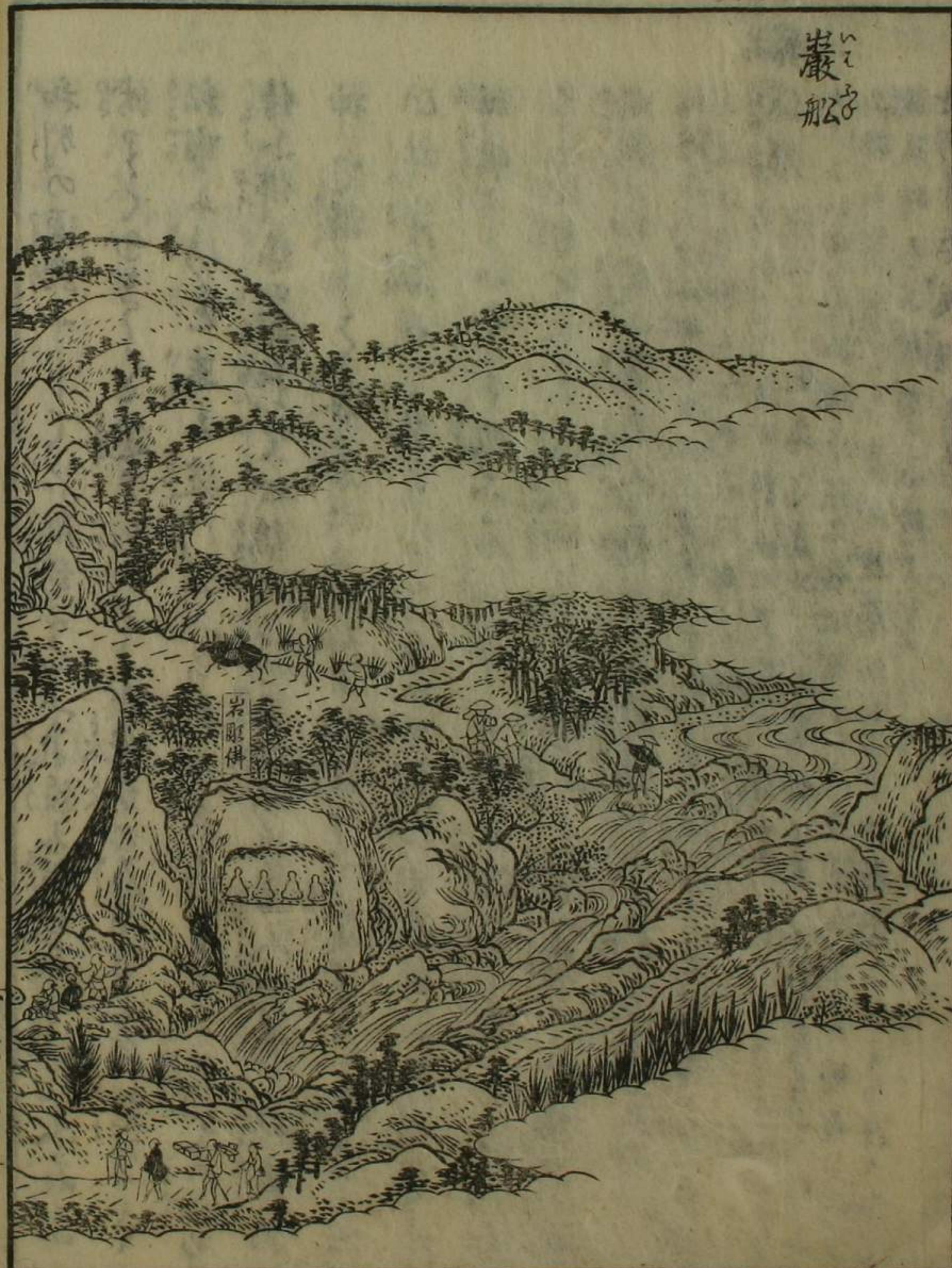
梅園

交野郡 東山城下喜郡和州源下郡の三郡の界ふ至る西も萬田郡の界ふ至る
石船巖 私市村うる東

此地左右峩々と遼々と延々と延々と延々と延々と
長サ五丈許 溪水石下汎通ト おもとすひ小菖 タチバナ 一匁は龜

河六二十九

鮎 和列の通路下にて岩船越ゆく下流を道の左小瀧れ又右小瀧
アマモと遼々と延々と延々と延々と延々と延々と延々と
私市小瀧と末を淀川下入られ名めく天川の石船の
傳小佛像四軀梵字法鵠又石の玉垣下土人は巖を住吉明
神也稱トと毎春六月晦日村民こくふ巖と櫛半弘
化神座石みて涙をむく和列南田原村石船明神の
神奥さざなみ小幸故小石船岩と云ひ奉式今之慶一傳へ
この地勢と見る事無山雨と見て途あく橋を涉へて帰る自
相親しむ寔小黄真人が羅浮山の水簾洞を比を龜さんや
河内志小石船山城上端峯也称すると傳うる舊事記の地理
小達人首題初巻石川那の郡下ふ記を
返滌 岩舟うる對町許滌の方小あり 嶺四房うちまくいにゆく
河内志小石船山城上端峯也称すると傳うる舊事記の地理
小達人首題初巻石川那の郡下ふ記を
小船ふ塞寺 其上うる滌焉く塞し入寒暖の筋小船登りて既小
雨松折ふ忽高石滌 又復天旱の時氣と折る 又復天旱の時氣と折る
とく風信



鮎返滝



妙見山 明星水より出る泉涌あり
妙見神祠 妙見山ふあり 神人御石
妙見石井 妙見石井ふ石の多井
御殿巨石 五柱三箇得めく時らて丘のゆ
妙見石井 妙見石井小松 指妙見石井
妙見善禱也 修く迎年 ちひかる信
住吉神祠 例祭九月十五日
星田寺 長武又八寸又十一面觀音菩薩をこれる星田寺
八幡宮 諸異の方 小小松重盛 建立の小松寺の奉る
旗立松 土人愛深院 神之寺と云津宗義
星田尊蹟 河内志曰星田村莊甲の毫後小尊
崇盆女故趾 今其跡小石柵を以てそ傳云
星石 三ヶ所ふあり一も妙見山ふる一も星田光林寺ふあり一も
星田尊蹟 河内志曰星田村莊甲の毫後小尊
崇盆女故趾 度登村小古傳云岸被妙見の室趾を
星石 三ヶ所ふあり一も妙見山ふる一も星田光林寺ふあり一も
星田尊蹟 河内志曰星田村莊甲の毫後小尊
崇盆女故趾 度登村小古傳云岸被妙見の室趾を

星田
妙見



明光寺

佐々木達寺 小属

天照山と号し大念佛宗

本尊阿弥陀佛

高さの他長さ尺八寸又塔内小十二佛の石塔あり

石寶殿

尚ももうき所

詳

興小あり按小石櫛の後きたる

其縫六貫目

中一小白骨を藏ひこれ仮官家小

又又迎年は側

金洞の壺大サキ尺解の先

其縫六貫目

中一小白骨を藏ひこれ仮官家小

新後撰

詠化法親王

御子の岩屋小路を傍らる折ふ

秋をすりてけりるの處々をそひとくやせ神をぬれ

權信正教範

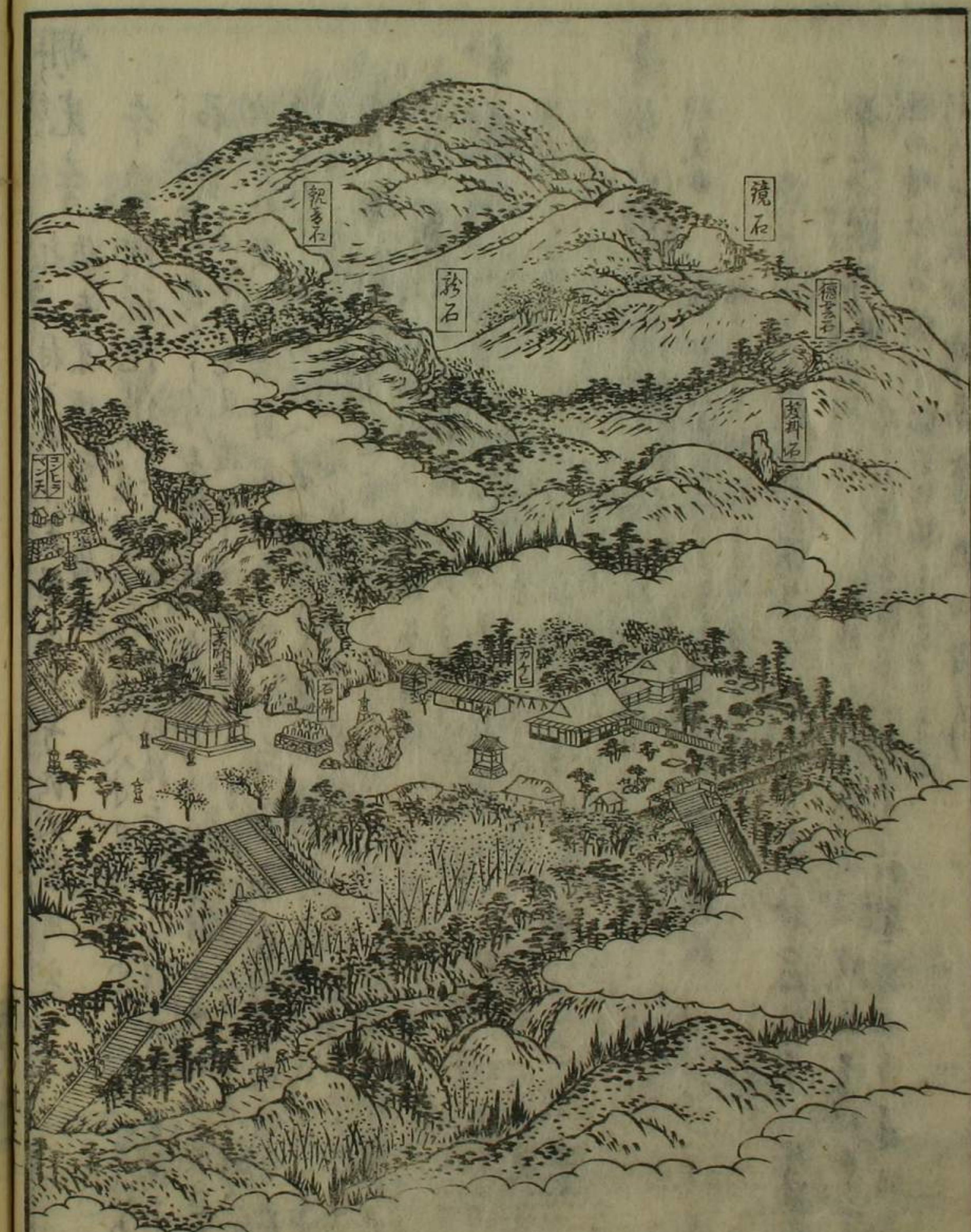
辛子薬作佛

行基の他庭縫長三尺許又額頭盧子供本堂小

懸の時もる像と熟返の滌小こりまつ

けりてゑがむふ半教日た

獅子
窟寺



獅子窟寺

坂路

下の坂口村より
牛堂まで
八町の坂道



獅子窟 寺堂の小みあり中臺金剛大般若窟也稱に
龜山院陵 寺堂より坂路を町半許北小あり祝玉廟陵記小
其報恩の事小塔公達る事の如人龜山院之山川峯哉
金剛寺の三所小藏む金剛寺と
紀州高野山金剛峯寺は小形り龜山事比皇妃乃人乞
皇后墓 帝陵の側小あり龜山事比皇妃乃人乞
鎮守 倶小岩上小乞
牛岡石 千堂の奥三町小あり辨天石祠の程
玲瓏石 壺の中清涼壇方丈の上
戒根泉 小あり天福石半にあり一名太黒石坂路の
一名親王石奥院の無底洞岩窟の本
虎嘯石 方丈の奥寶篋印塔歎山の中
當山の記曰寺の主山蒼翠盤礴小々其軀佛子矣
地上小観るふ肖々洞窟も深邃にて猿狖の如公園

吼聲カク一丈小震カク不驚髮カツカツ佛殿カミヤマ小腹カミハラ不トカミハラ天河カミタガと隔カミタガ之東
の方カミタガ系作カツカツ遙カミタガ一丈西カミタガ方カミタガ攝城カミタガ瞰カミタガ山カミタガ之東カミタガ系作カツカツ牒カツカツ闕カツカツ
がめカツカツ奇巖性石カツカツ山巔カツカツ小聳カツカツ深壑カツカツ小捲カツカツ小叢松脩竹カツカツ鬱密カツカツ
一丈森沈カツカツ佛聖カツカツ宅カツカツ所カツカツ不カツカツ有カツカツ人カツカツ豈カツカツ此カツカツ絕勝カツカツ人カツカツ也
其來由カツカツ考カツカツ於カツカツ昔カツカツ在役カツカツ小角金剛山カツカツ小居カツカツ一丈海カツカツ一丈
遙カツカツ山頭カツカツ五彩カツカツ雲氣カツカツ五色カツカツ是心カツカツ一丈靈區カツカツ也カツカツ遙カツカツ
錫カツカツと飛カツカツ一丈小房カツカツ榛蕎カツカツ披カツカツ巖址カツカツ夷カツカツ茅カツカツ縛カツカツ一丈
一日窟中カツカツ宴坐カツカツ首カツカツ矯カツカツ観見カツカツ是地カツカツ變カツカツ一丈淨瑠
璃カツカツ翠カツカツ一丈爾後カツカツ山カツカツ掩カツカツ藥作カツカツ身カツカツ之澤カツカツ也カツカツ
聖武高カツカツ比渟宇カツカツ不遠カツカツ而カツカツ偈カツカツ行カツカツ墓カツカツ勅カツカツ形カツカツ公カツカツ善カツカツ梵カツカツ利カツカツ劍カツカツ
宸カツカツ且カツカツ立カツカツ墓カツカツ小准カツカツ四隅カツカツ峰巒カツカツ四臺カツカツ標カツカツ一丈山カツカツ也カツカツ
中臺カツカツ復カツカツ舍カツカツ金剛般若カツカツ窟カツカツ廬前カツカツ小度堂カツカツ設カツカツ
同カツカツ公擇カツカツ朱毫カツカツ畫棟巖窟カツカツ照耀カツカツ又經藏達樓カツカツ食堂カツカツ修寮カツカツ

暨カツカツ二層カツカツ塔婆カツカツ鎮守カツカツ神祠カツカツ辨財天祠カツカツ等カツカツ次建カツカツ一丈之左右カツカツ列カツカツ
又一堂カツカツ中カツカツ小聖德王假カツカツ小角行基カツカツ之三像カツカツ安カツカツ外カツカツ小二金剛カツカツ之三
設カツカツ山場カツカツ四至カツカツ之結界カツカツ小名寶鑑印塔カツカツ造立カツカツ山之南カツカツ之北カツカツ山
間カツカツ小觀カツカツ嘉慶德雲石大黑カツカツ石掛後石龍窟カツカツ等カツカツ之盡蹟カツカツ其
僧房都カツカツ十二院カツカツ其後一百有餘カツカツ菴カツカツ應長中弘法丈作カツカツ
山之窟カツカツ壇カツカツ次立カツカツ佛眼明妃カツカツ法傳カツカツ二昧成就カツカツ時七曜カツカツ
降下カツカツ山林カツカツ照耀カツカツ又表カツカツ御子寶冠佛母尊カツカツ乃居所カツカツ
名カツカツ古神祠カツカツ之三カツカツ天河カツカツ左右カツカツ小散至カツカツ抑神龜天平カツカツ文應カツカツ
弘長カツカツ至カツカツ既不五百有餘カツカツ菴カツカツ應長中弘法丈作カツカツ
窟カツカツ於是カツカツ上皇車駕カツカツ為カツカツ之除幸カツカツ之至誠祈福カツカツ不カツカツ有
之カツカツ變形カツカツ一丈皇疾頓瘳カツカツ廢情カツカツ之不カツカツ飲カツカツ之即カツカツ膏肓カツカツ

余して重く厭廢を興し殿堂門廊煥然として一新に山下二里許
行宮の故基あり今呼ゞ院田里親喜寺と云ふ又山右峯崖の下に
古石塔婆二基あり荒草涼煙の中に屹立其一も皇陵也其一
も后墓也厥后二百餘の星霜が歴々文福度長の騒擾小中て兵の
為小毀され金碧の區変にて瓦礫の場である寺產も亦あぐぐ
宦府小属の鳴峰寺田碧海須臾小改すゆり半を我の沙門

月潭は寺記と識して幽山を藏む

親喜寺真言宗私市村小あり龜王山と號ひ一名千手寺

奉尊如意輪觀音行基の傳ひ大慶諸堂魏
龜山上皇の神碑奉堂小安れ此地の室院田とよる柳子密ちの
絶紀小見へづらく龜山上皇然野擅現の臺告ふう内と善見山へ
り幸成(?)く御時此跡次行宮とく内後本太懸の像仏安坐
く千手寺也号は故小院田の号あり後二條院の清寧嘉元
二年の事勅小ろしく奉堂再興(?)坊舍あとぐれを海(?)く
寺領も寺附(?)内とば圓へ
跡寺森村小あり名通山と号は大念佛宗
須臾佐さま近寺に屬す

親喜寺真言宗私市村小あり龜王山と號ひ一名千手寺

奉尊阿弥陀佛天台宗親喜堂

千手大悲法華經の他長天七才
初ハ弘法大師の冥卷ありて密室

嬰兒山寺村の東にあり名區へ山中小観音谷鶴石等あり峯小龜王
丈本わうてやうわねあくせ時有みどりこふふ入を希ニ

傳示川水源傳示村松村等延寺村の二色あり今あくべれ天長
水室古蹟傳示村松村等延寺村の二色あり今あくべれ天長

私部古城天正年中慶を
これ公用也と云今傳示村小

光通寺禪宗傳示村松村等延寺村の二色あり今あくべれ天長

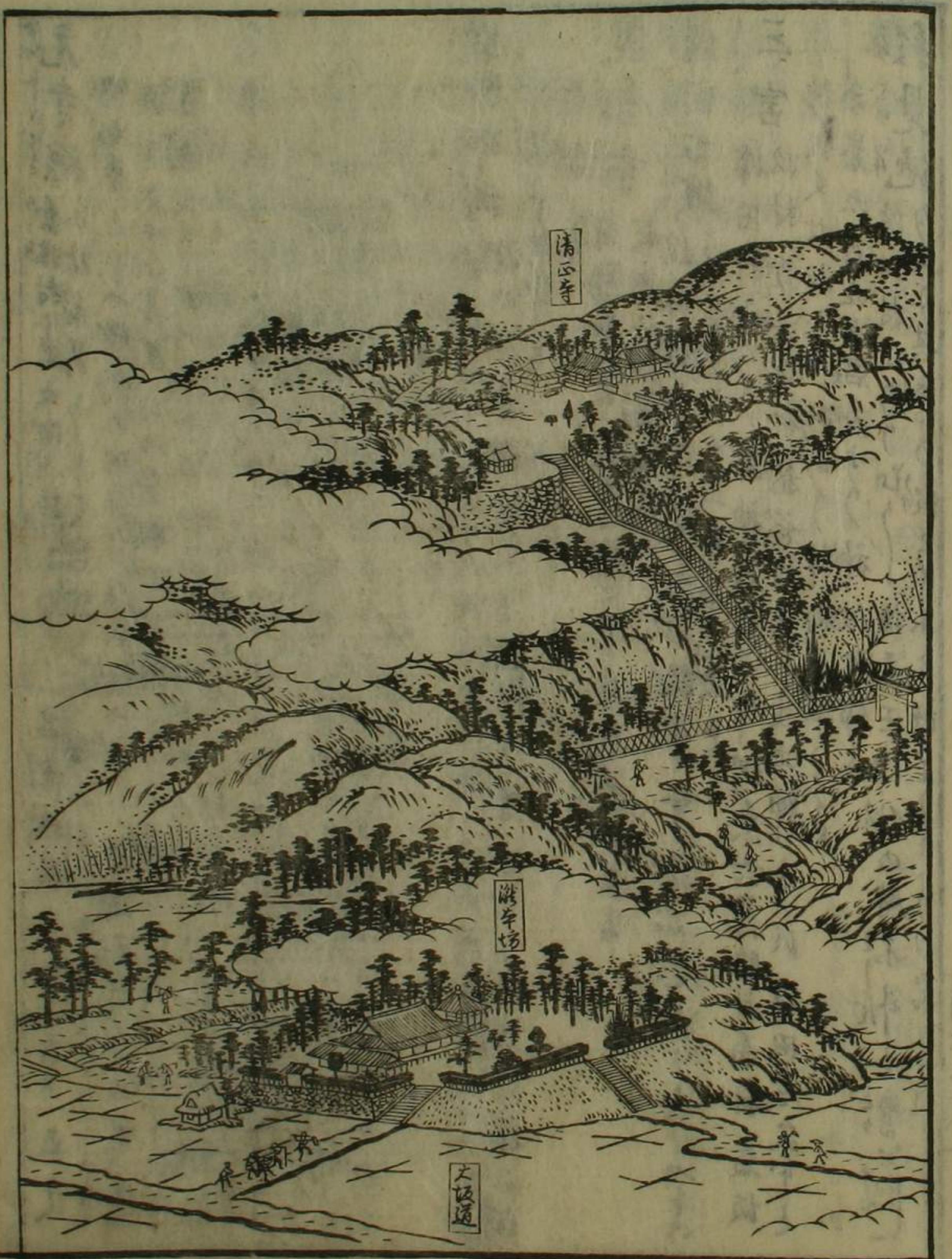
奉尊如意輪觀音天台宗親喜堂

南朝後村上院の勅願所

中長梅塚郡門村奉喜堂十一面觀音長武尺

滿冢日村小あり平冢日村小あり不詳

共小由縁不詳



元寺 瀧食治村の凍立町 舟小 一 名倉 瀧 とく 人高サ五丈
因元寺とて 淨刹の地 放小壠の名より浪花及ヒ迎隣岩
病者有りと聞和の者眼病れ者有り・小舟アセ瀧小治マレを
靈應有り、不動石トシ方三丈許有り又山峰小
大岩あり長五丈八尺山坂瀧尾ふと瀧路の側小谷近あり
津鄰河又山の入ロ小瀧幸場とく天台宗の繪壁通あり
交野山 倉治村凍の上方の懸等 極ム 郡名 小川にて舞
車多ふも不動寺松安忌 元寺の古蹟形りとく
機物神祠 倉治村小ありは前生土神 例祭七月七日祭 甚専據不演
禮の時童男を人を選んで祭主五丈許小字者 有五丈
松禁を申と
事要 村野小町天野山と号ひ幸正親王
親音寺 定朝の僧長三人
津田古城 津田村小町一ノ承禪年中津田主水とツ小町
三宮 津田村小町津田尊延寺村櫛谷村名坂
移し又於村小古松あり神祠乃歴へ
毎岁九月九日宮座うる神供詔御山
新見池 津田村小町其泉清冽小一ノ
惟喬王御猶の時不斗モ齋と號
名づけふう沙とく名づけ
河内文首始祖博士王仁墓 益坂村の東北津墓谷小町
石標王仁之墓

穂谷川 水原樹谷より流く 遇寺村松村津田村田口村多松屋
尊延寺 延寺村小町又五丈五尺安樂小弘法大師の僧
杉妙泉 游村小町其泉清冽小一ノ
明尾寺 益坂村のあらう真言宗寺說云初ち中將始の開基人と云
本尊十一面觀音 長武尺護摩堂 不動明王
河内文首始祖博士王仁墓 益坂村の東北津墓谷小町
古今 かにとけはやよの花をこりて今と妻ととくやこのまか 王仁
おほそとみとれかふとほみてみとくきこゑる時東宮瓜
み小 人のぬうり思ひてよえてたて海川をすうとく
國見山 坂の東にありとく小登れも幽園及び城攝の二鄉眼下
小山墓 田口村小あり縣正一位田口氏と称へく仁明天皇の外祖母
安樂寺 唐佛
山田池 田口村小町 大池 招提村小三箇所あり
度七百畝

雜魚取

轟色不憚
暖氣東流
小池をもれ
いのくの鱗
遊まくる里
童これと人
とくさでいれ
など



丈州

城奉也
根芽水
鍵の
逆
持ゆるも
長竿をも
素の真と
るえりる



天川の



新後撰

靈廟の事をさしきみうす所と云ふて猶未だ相

後ノ人哉

古政大臣

續十

あつむひてせれふとま葛原とえも所をあそひ

之中店

高寔

新十

めじかのりふるやくは御の所供奉てをほじ

都芳門法

安藝

新十一

からすれども三日中に湯ふと送るとの燐れ月

忠房親王

新鑒書

君源九とお辞手とがく多和モ内裏をあらむ日け

在中酒言

為重

鳥

立原（登羅太加原）

新古今

御宿をやまと風ふねあらうかのりせぬふりもんじ

花園白

吉政大臣

百

車原（交野村の一名）

或力云

佐政大臣

車

塚

禁聖村小あい（惟喬親王御車塚）

佐政大臣

和

田寺

真言宗

和田寺禁聖村より醫王山佛陀院と号ひ

佐政大臣

本

尊藥師佛

聖德天子御棺長三尺六寸婦人妊身の時病れを安寧

佐政大臣

和

田寺

真言宗

和田寺禁聖村より醫王山佛陀院と号ひ

佐政大臣

尚

寺

國墓

弘法大師

尚寺國墓弘法大師として卒尊を初メ攝列四天王寺小

河六四十三

左せ一紙大附（紙大附）一紙小遷一紙其後眞觀年中 文德天皇第ア
皇子 清和天皇弟清兄惟喬親王（文德天皇第ア）
院小庵へと此を即これ紙塚小築く小祠を建る今古鎮守
これあり其後唐永の頃慶蕪に上りて楠黨和田新義意源
秀再興此因茲和田寺を改む什寶小大附眞蹟の兩界曼茶羅
あり寺前に御持櫻石初の樹を枯朽して植絶名を我國（一
百濟王靈社百濟寺とよあひ今廢）
傳云延暦二年のそ恒武天皇交趾小遊獵（一）
行宮所小供奉に其外利善。武陵。元德。玄鏡。明真等。陪小進
て宮爵。交賜。又西宮記云百濟王公交野の御接と/or共
河伯の聲とおゆこれを長柄の人ぞうらと其娘婿成長く
接列（一）は里の長者の家ふ塚ん其母戒（一）先て汝父

中

宮池（中宮村ふあり）

宇之木塚

日村小あり由泉

不詳

（一）

（一）

（一）

（一）

郊

日辛後記云
祀壇廢蹟

物いそゞ父をかづれ人柱すとぞひだをいれすとねと
支えられを圓く其家園とふ難んと松の家が小御れ御子
豊島郡難波名所圖會小豆之村

延暦四年十一月壬寅天神波交野の相原に祀りて宿禰波
賽も終り同六年十一月甲寅大納言藤原繼繩が遣りて
天神波交野小祀を高祖天皇と之れを配享以齊衡三年
十一月大納言藤原良相を交野相原に遣りて是天上帝波
郊祀を後田原天皇も亦ち小配享に壇上の古蹟小老
村あり今交野の一キ杉と云ふ

波瀬院古跡瀬村ふあむむ懶喬親王遼瑞の時も小頓宮と
親若波安(眞言宗)を守佑

駒止松(惟喬王)小駒(波繫)今僅小殘るなり

碑銘(寛文元年十月山列淀城主永井信別尚政の舍弟同母賀守家謙

杉井吉通建之銘)向陽林子撰序文署之

於翠吟在華戲波瀬
昔以雲波瀬
為盛醉
遺籠野水
蹤復旧
貫文元年辛丑十一月
後波撰

君多くよ波す有れ梅花もうの多きを波向ひ焉
むう一あきくうれみこよりをとこおりしましやうふきたの所れと
小あせ歎とソレ小宮あり是年毎のさくは花さかうふる
其宮へ歌へねくゆくはその時みのむす乃うと歌りうる人と

けりふみくおもく海中暑 酒波のむねく波やまくお
みゆれをうひてかうきを経てこのあんさん家そのわんさん様
あくふおりへゆくその本木をよみがれりよく枝をねりく
かうへにてかくねても寄およびむきかうをめうるのうち
古今此の中ふだく機のかうせはまれうれすのとをくまく 業平

やあじよみうりな教入人のお

あれともせひくく櫻ひめてたまとうなみふかにうむけりあくま

彰後於 花乃色の阿佐えあれをめらかをや波の肩ふいさくしてん

後成

彰後於

花乃色の阿佐えあれをめらかをや波の肩ふいさくしてん

後成

彰後於

花乃色の阿佐えあれをめらかをや波の肩ふいさくしてん

後成

彰後於

花乃色の阿佐えあれをめらかをや波の肩ふいさくしてん

後成

彰後於

花乃色の阿佐えあれをめらかをや波の肩ふいさくしてん

後成

彰後於

花乃色の阿佐えあれをめらかをや波の肩ふいさくしてん

後成

彰後於

花乃色の阿佐えあれをめらかをや波の肩ふいさくしてん

後成

彰後於

花乃色の阿佐えあれをめらかをや波の肩ふいさくしてん

後成

彰後於

花乃色の阿佐えあれをめらかをや波の肩ふいさくしてん

後成

彰後於

花乃色の阿佐えあれをめらかをや波の肩ふいさくしてん

後成

意可是昔之今也復郎寬廣旁之食歲公長修在固之之
在不外之東之先舊之改壞隣後焉九之七人焉追時
斯尊浪人北所是縫農八荒九塗豈千主年徒豈置在又
矣崇華尊則可附未民年冀郎盛嘗解蓋土博其巨則至
儀修者而計得庸勤興春焉之往以大本募可社浪矣
又治而再之暨大及補本其舊田昔壯府之良不以華大
成乎不修所也夫往廢祠又社如之其之事工再遏之有
唯唐知之鎮惟相昔壞祝隱然降以祠所始大侵不東大
以榮計今舊然謡之葺吾也歷為乎以嘗畢臣乎群北夫
九所之之何祠曰顯隱族有年附哉使尊其庶哉也隅一
郎以所人有之往亦草子年之庸案大崇西庚謡且為旦
之遏以不厥昔不革本於久之小云室雲成其所相
人不舊於在之可而親茲不采記祝塗置於基謂謡
非祥安禡古寔顯謂後謀得地傳等塞相子是健鬼日
多之也修令浪固之稱於不今文各之國來乎令門計
而微其則乎華非隱僅九亦獨祿有供營慶大猶是祠

之京雨陰一不之之之焉常鳴修
貽師少宮降薦民有故多呼節
徑降不神福田戴所今顯夫之
勞穀溫祠乎圃其因此之一費
不水顯人哉之耿也記時隱非
怠不之甚供光神語常一
補益所焉廢春之甚顯故
修涯怡知不摘秋靈舊乃未至
必既龍名降不祭能使世必今
時鎮蛇福不廢祀舊不人可日
記浪維松乎也不麻知多相而
以華伎德銘之急者無後
鐫永雷石靈則而知有隱
無窮其九鍤九尊此之此
而尊崇祠時舉

憲政丁巳之春

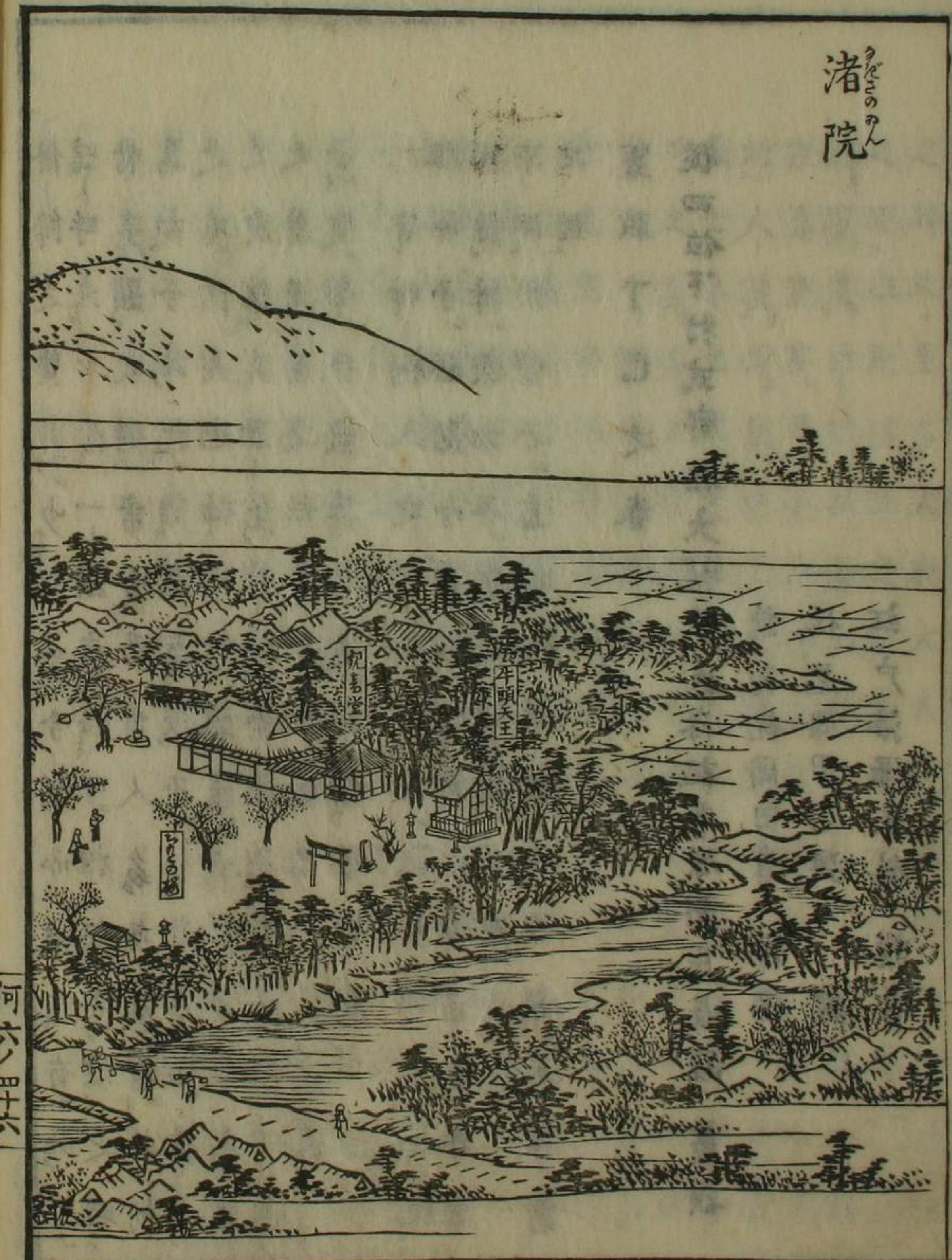
前祠祝岡田臯 豊額

伏見岡田宗興 拜摺
江戸海保臯鶴 謹書 建

從四位下行式部權大輔兼大内記管原朝臣長親

篆額

諸院



河六ノ四十六

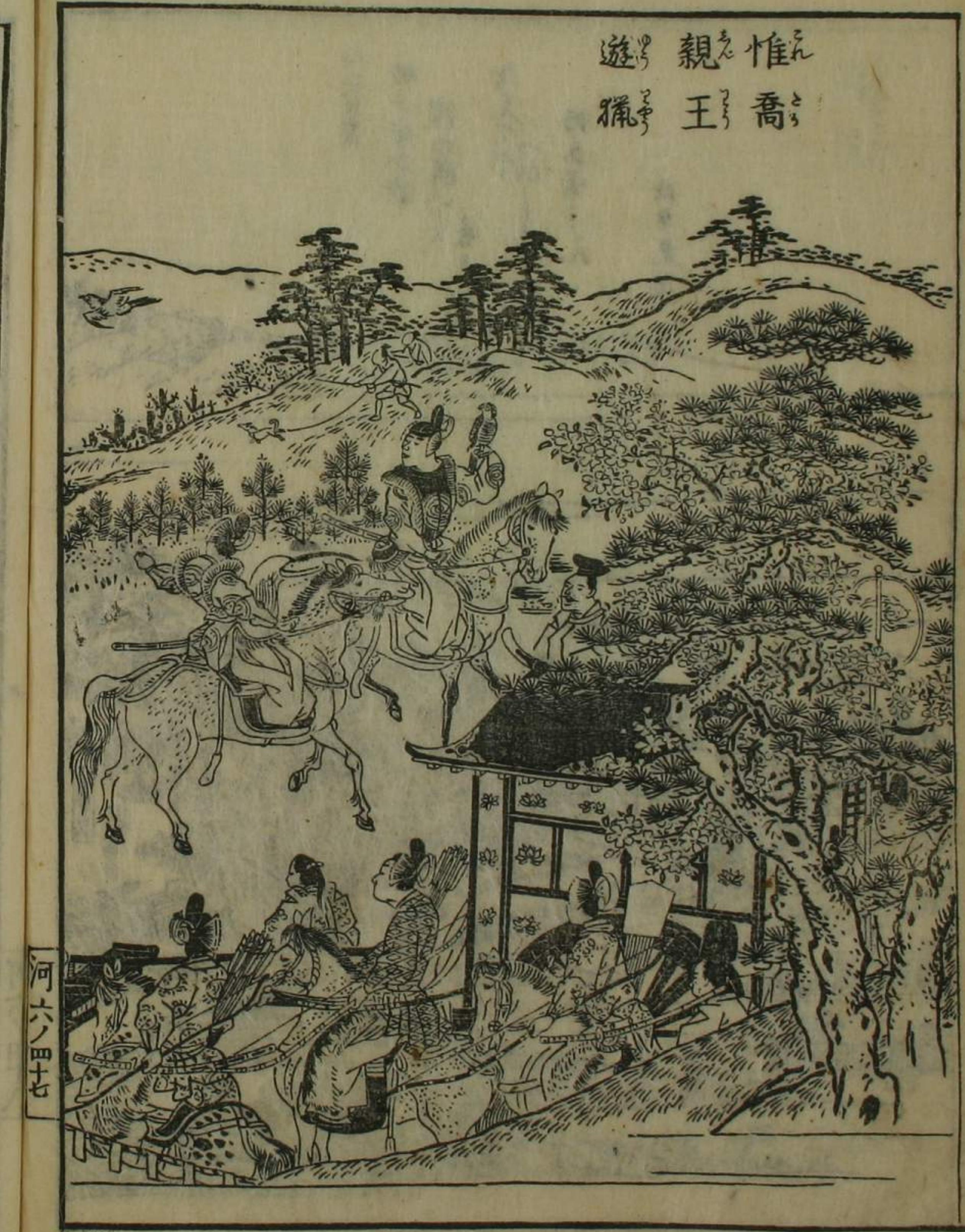


法平定圖

弘安百首

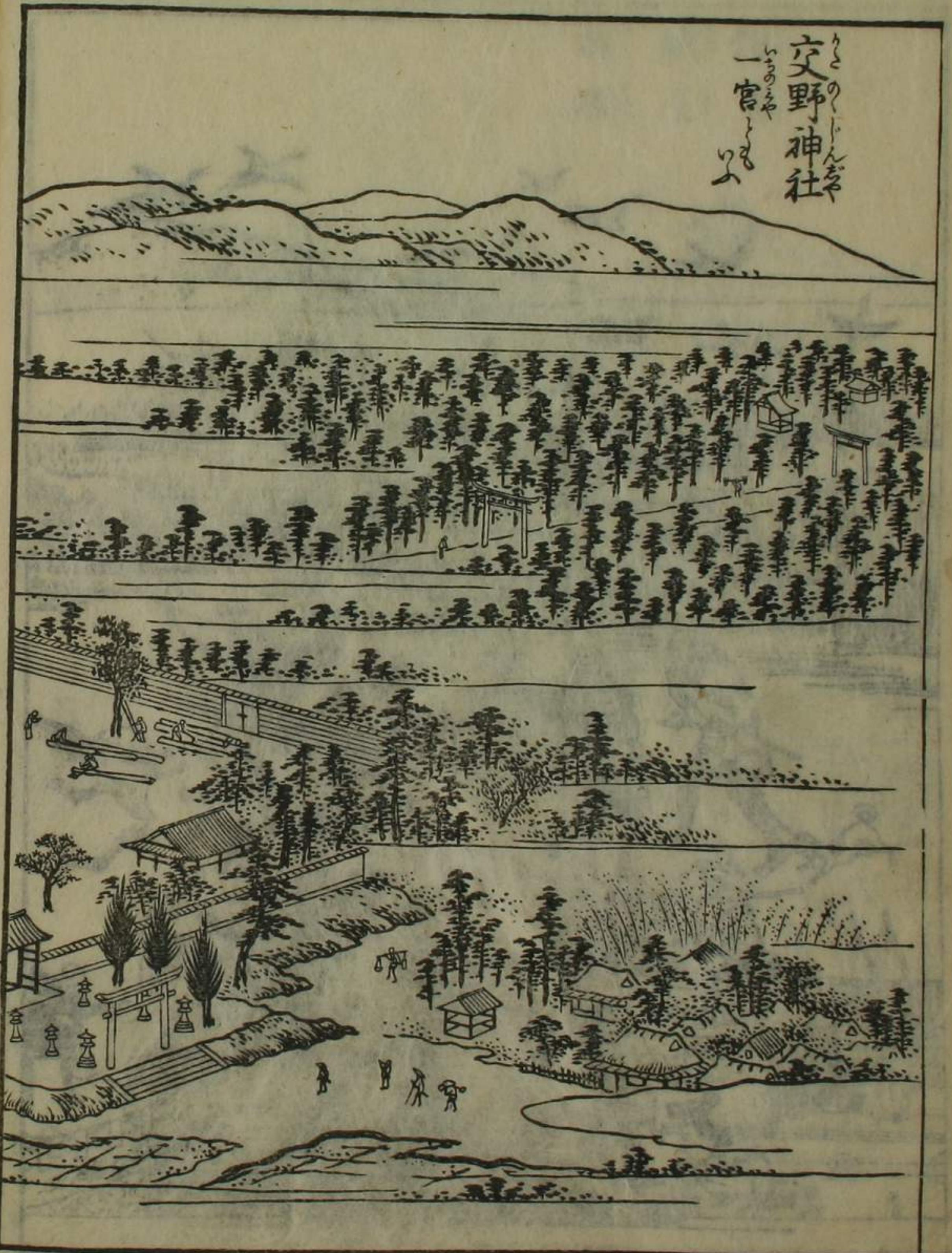
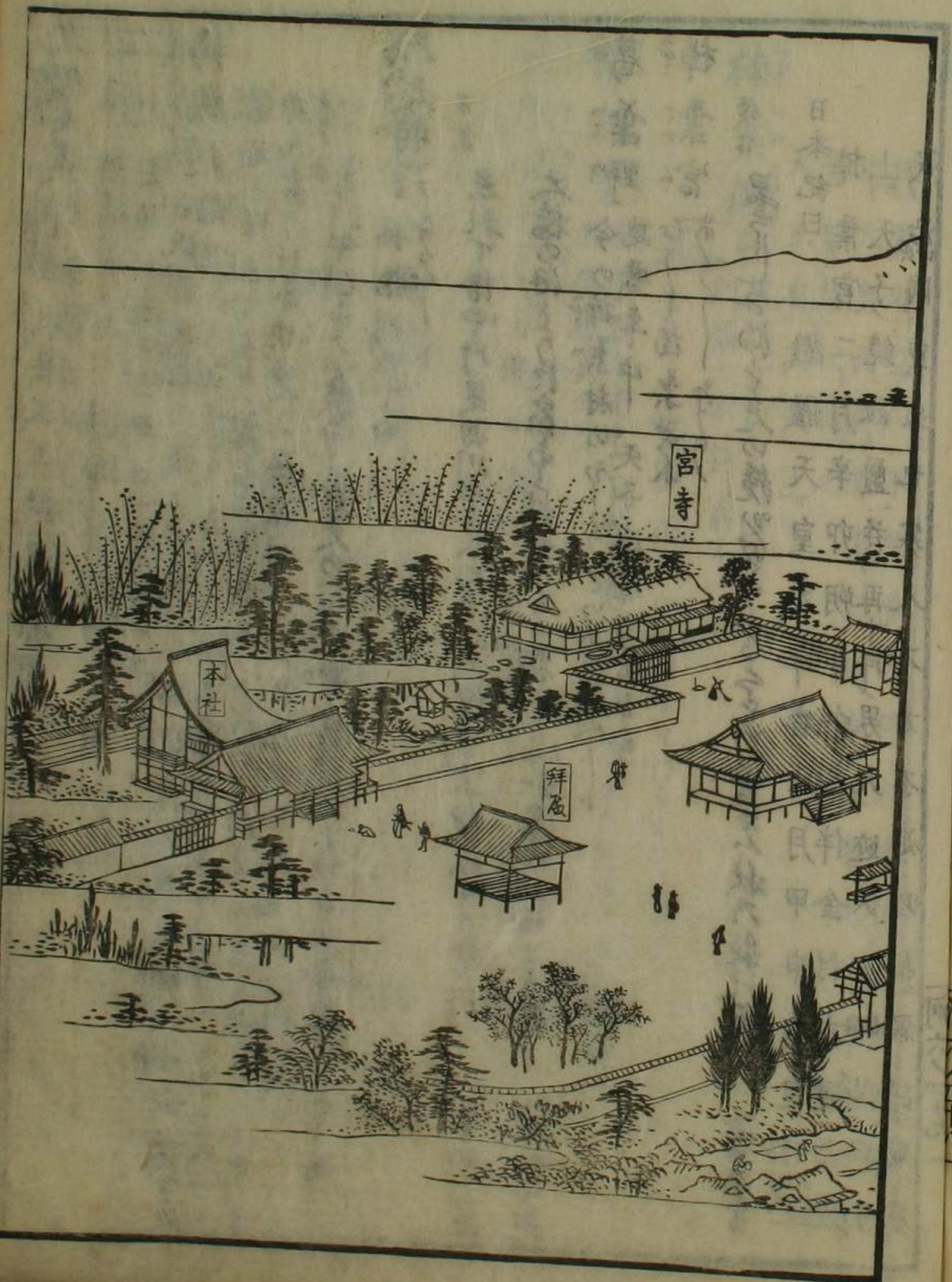
かご渺かゆ
湖の橋のく
たえでせ
移ふゆん

遊親惟
獵王喬



河六ノ四十七





久須美神社

葛上村の属邑

二ノ宮

舟橋村小あり近隣三ヶ村の生土神

舟

橋川 源荒坂峠の南より流く招提村小至り洞ナ浦、洪歴

霖雨の時ふきとり船小舟あり

形んなうけまはゆ小舟橋川とて大橋のわすだ小えぞ

あれやけを小波あらぬ天の川支那也ゆけもつ舟舟橋

光俊

厅足羽川 舟橋川の一名

万葉

志れて舟や厅足羽川のよみれに大橋の上るを下り

日暮

猿人ちうに

大橋のほとりに家あははむとく獨りみに宿かく

旅

宿

葛

葉野 今の柳糸村のやまとくの形

一

樟

葉宮 あり木の葉の形

傳古

墨リシム酒ヒタの後ツケテアモミの宮在秋乃亥比月

閑居在店

日本紀日

樟葉 宮繼體天皇元年春正月甲申天皇行引至

日

上リ天子鏡剣璽首再拜男大迹天皇謝曰子

河六ノ四十九

民治國重事也寡人不才不足以稱願請迴應

樟葉

宮有其天子之記也

下

川幅六町許あり

樟葉

渡口 柳糸村小あり一名之渡園院卒乎立像釋迦佛

班竹

釋迦堂

赤栴檀長六尺

藤原繼繩別莊

柳糸村小あり古跡の字今辰原室地名也

懸松

松根山公の軍帳とひきれりと都名所拾さざれ出で

彌勒寺趾

柳糸村小あり一名足立山列や幡の古記小尼ノ

釋迦

堂柳糸村小あり一名之渡園院卒乎立像釋迦佛

寒

柳糸村小あり一名之渡園院卒乎立像釋迦佛

帳百濟王敬福

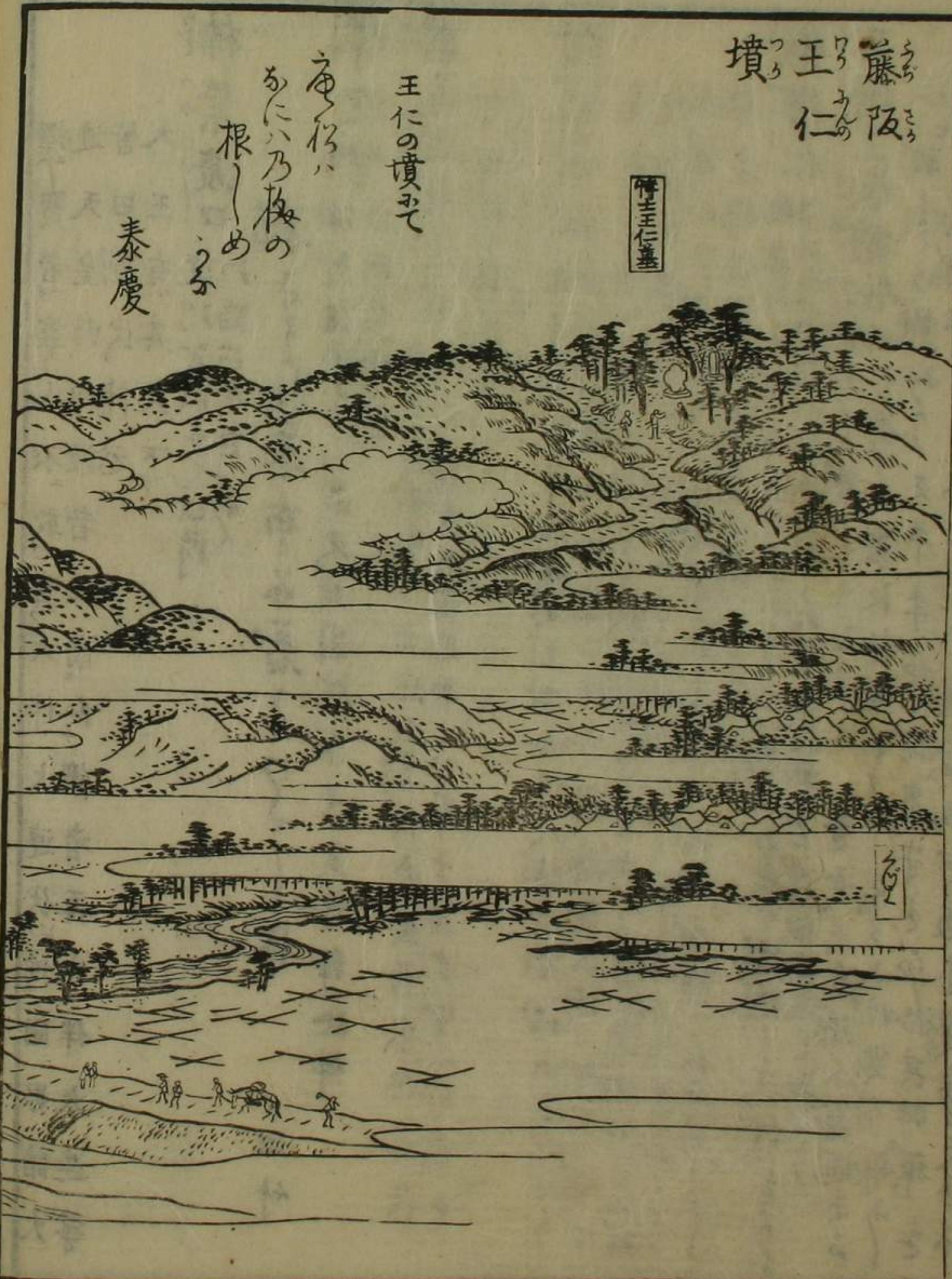
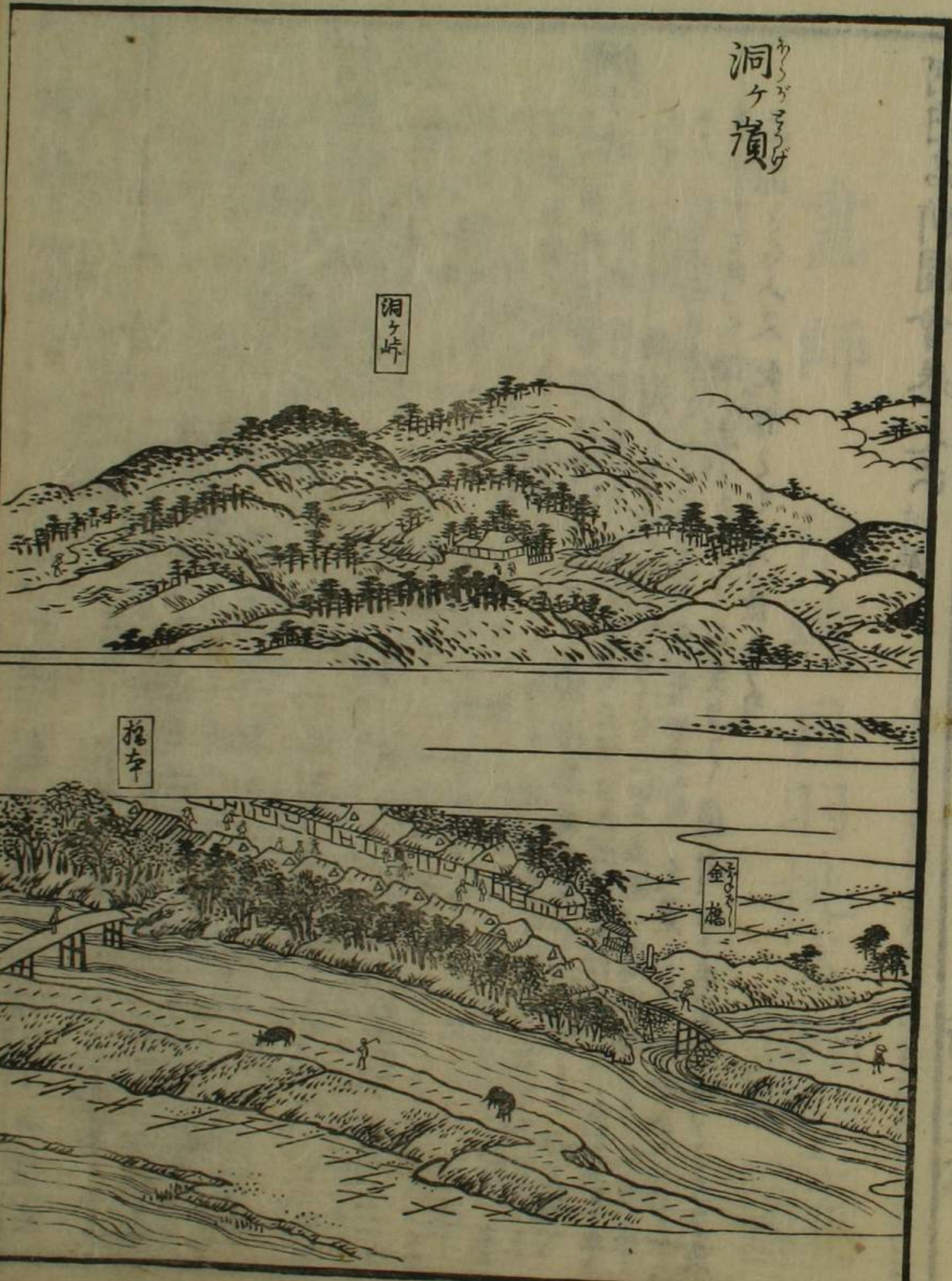
柳糸村小あり一名之渡園院卒乎立像釋迦佛

都名所圖會

柳糸村小あり一名之渡園院卒乎立像釋迦佛

政小田郡

柳糸村小あり一名之渡園院卒乎立像釋迦佛



百濟王慶仲

舊金の出ふるをうへて薨モリ。神護の子ト免刑。弟小伐ハシタ。

年六十十九。死して薨モリ。

小渡コロにあり。其跡カタマリ。暴人有く。捉者數人を殺して。渡船コロと掠ハサウる。

旅宿其形カタマリ。洋流ヨリ。而小舟コロを捕ハサウ。敵アシテ。牛羊殺十箇。其徒多ハシタ。近支アラシ。

人の窮コトコト。公私コトコト。羊多く。少く。之の主ハシタ。主税頭ハシタ。年仲ハシタ。卒ハシタ。

金橋コロ。捕葉ハシタ。北ハシタ。山列ハシタ。橋本ハシタ。南ハシタ。鷲ハシタ。河ハシタ。城ハシタ。河の國界ハシタ。牧方ハシタ。乃ハシタ。

洞ハシタ。城列ハシタ。徳喜郡ハシタ。内ハシタ。而て。城河ハシタ。奥ハシタ。國界ハシタ。市ハシタ。

仁和ハシタ。一番村ハシタ。七番村ハシタ。守ハシタ。の驛ハシタ。土居ハシタ。至ハシタ。本屋ハシタ。計二町。是ハシタ。

河ハシタ。奥ハシタ。國界ハシタ。金橋ハシタ。より。洞ハシタ。不遠ハシタ。通計八里十二町。これと京路ハシタ。と云。

三里二十一町。西脇ハシタ。中道ハシタ。内ハシタ。而て。三里廿二町。中道ハシタ。中路ハシタ。内ハシタ。而て。三里五町。家田林ハシタ。より。三日市ハシタ。

まで武里三日市ハシタ。天見ハシタ。天見ハシタ。到里三町。天見ハシタ。紀伊殿ハシタ。清野ハシタ。而て。

諸理十七町。洞ハシタ。而て。小至ハシタ。通計十五里三町。是ハシタ。

古道ハシタ。又。紀路ハシタ。とも。跡ハシタ。有ハシタ。

河内名所圖會卷之六 大尾

河六ノ幸大尾

畫師 浪速 丹羽桃溪



籬鳴先生著述品目

都名所圖會

竹原春朝齋画

六卷

大和名所圖會

同画

七卷

和泉名所圖會

諸名家画

四卷

都古跡名所圖會

諸名家画

三卷

京の水

下河邊拾水画

圖三面

源平盛衰記圖會

諸名家画

六卷

保元平治鬪圖會

法橋中和画

十卷

享和元辛酉歲冬十一月

皇都書林

出雲寺文治郎
小川多允衛門

殿 爲 八

浪華書林

高橋平助
桺原喜兵衛

森本太助

畫相

象牙印

浪華

象牙印

浪華書林

